

Ⅲ「谷町・大江地区」今昔

1. 「谷町・大江地区」について

・ここでは、東側は谷町筋・東より西側は東横堀川まで、北は大川から南は長堀通に囲まれた区域にある町々の移り変わりについて、眺めることとする。

○「谷町」について

・谷町の地名は、西へ落ち込む上町台地の谷地形に由来する。

かつて、上町台地の西側は大阪湾に向って、釣鐘谷、本町谷、龍造寺谷といった深い谷が落ち込んでおり、千日前通の南から四天王寺にかけては、“天王寺七坂”と称される坂が、現在もその名残として残っている。

「タニマチ」とは？

・「タニマチ」(谷町)は、相撲界の隠語で、“鼻肩にしてくれる客”(＝無償スポンサー)を指し、現在では、相撲界以外のスポーツや歌舞伎界や演歌界等の芸能界でも幅広く使われる。語源については諸説あるが、有名なのは、明治22年(1889)に谷町6丁目で外科「薄病院」を開業した薄(ススキ)恕一が、幕下力士のため病院内に土俵を設けるほどの相撲好きで、幕下力士を無料で治療したり、小遣いを与えたと伝えられる。

ほかにも、谷町の大手呉服問屋の主人が相撲好きで、何かと力士を支援したからという説もあり、かつては春(大阪)場所において多くの相撲部屋が谷町界隈に宿舎を構えていた。

○「大江」について

・大江は、文字通り“大きな河”または“海や湖が陸地に入り込んだ地形”を指し、大川(淀川)に臨んだこの辺りが古くから「大江の岸」、「大江の里」と呼ばれていた。

現在も、「北大江公園」、「中大江小学校」、「南大江小学校」など大江を冠した施設が、多く存在し、地元住民にはその名が日常的に親しまれている。

・『後拾遺和歌集』に、平安時代の歌人・良暹(リョウゼン)法師の和歌として、「わたのべ(渡辺)や大江の岸にやどりして雲居に見ゆる生駒山かな」が載せられている。

○この地区の“筋”・“通り”と現在の町割

・南北の道である“筋”として、東から「谷町筋」、「善安筋」(石町通より南)、「高倉筋」、「御祓筋」、「(内)骨屋町筋」および「松屋町筋」の6本、東西の道である“通り”(*)は、北の「土佐堀通(京橋通)」から、この地区の南端である「長堀通」までの間に19本あり、谷町筋の西部から松屋町に至る区域は、各通り毎に、“通り”の両側町による東西の町割りとなされている。「骨屋町筋」の名は、かつて傘屋が多かったこと又は牢屋があり骨が出てきた等の説がある。また、「高倉筋」は“たかみくらすじ”から、「御祓筋」は“みはらひすじ”から訛ったもの、「善安筋」はこの筋に住まいした“禅庵”という人の名からきたとされている。

*「土佐堀通」、「長堀通」以外の“通り”の名 … 北から南へ

「石町通」、「島町(高麗橋)通」、「内平野町通」、「大手(思案橋)通」、「糸屋町通」、「北新町通」、「南新町通」、「徳井町通」、「内本町通」、「鎗屋町通」、「両替町通」、「常盤町通」、「農人橋通」、「南農人町通」、「内久宝寺町通」、「和泉町通」、「内安堂寺町通」

うち「両替町通」は、現在、拡幅されて「中央大通り」になっており、「両替町通」両側にあつた両替町は、北の「常盤町」と南の「農人橋」に分割・吸収されている。

これら“通り”のうち、東横堀川に架かる橋によって船場に通じている“通り”は

土佐堀通(今橋・葎屋橋)、島町通(高麗橋)、内平野町通(平野橋)、大手通(思案橋)、内本町通(本町橋)、農人橋通(農人橋)、内久宝寺橋通(久宝寺橋)、内安堂寺町通(安堂寺橋)、長堀通(末吉橋)である。但し、大手橋(思案橋)は、東横堀川の西側で南北の道路とT字形に交差して通りとは接続しておらず、長堀通(末吉橋通)は、江戸時代には骨屋町筋までの通りであったが、長堀川の埋立後に東西に延びる1本の通りとなった。

町(通り)名に、“内”の次が付けられている町(通り)は、大坂城の惣構内に位置していることを表している。(例えば、内平野町通は、西の船場区域では平野町通と称される。)

なお、谷町筋沿いには、谷町筋の両側町として北から「谷町1丁目～同5丁目」(6丁目～9丁目は旧・南区)の町が南北に延びており、西端の松屋筋と東横堀川の間には、それぞれ南北に延びる町割り(東高麗橋、本町橋、材木町、松屋町住吉、松屋町)が形成されている。

・南北の筋と筋の間隔は、谷町筋と善安筋との間が約80間、善安筋と御祓筋との間が約60間、御祓筋と骨屋町筋との間が約70間と区々であり、善安筋と御祓筋の間には内淡路町通までの短い高倉町筋があるためその間は約30間に仕切られている。一方、通りと通りの間の幅は、概ね30間幅になっていることから、町割りは東西に長い長方形となっており、のちに町づくりが行われた船場地域が40間四方の正方形の町割りであることに比べ、大きく異なっているといえる。

・現在の町割りをみると、各通り毎の東西の町が、御祓筋を境にして東から西へ1丁目と2丁目(但し、内久宝寺町のみ3丁目と4丁目)に区割りされているが、内平野町と内淡路町、大手通、農人橋の4町については、松屋町筋の西、東横堀川との間が3丁目となっている。(大阪市内の住所表示では、その丁目、番地について大阪城に近い方から順番を付すことが原則になっている。)

○「谷町筋」と「松屋町筋」

「谷町筋」について

・かつては、天満橋以北の「天満橋筋」と一体であったが、現在は天満橋交叉点(土佐堀通)から天王寺区・阿倍野区近鉄前交叉点に至る南北約4.7kmの幹線道路で、ほぼ全線が片側3車線の計6車線道路となっている。

(江戸時代の『地方役手鑑』(元禄年間)には、「天満源八町から南は天王寺寺田町法光寺まで南北44町28間余り」と記されている。)

・明治44年8月に、大阪市電(第3期線)が天満橋～谷町6丁目間(1.5km)に開通し、この区間が幅14.5mに拡幅されたが、南側は幅6mの狭い道幅のままであった。

その後、戦災復興関連土地地区画整理事業によって昭和33年に南側が拡幅され、さらに昭和45年に大阪万国博関連事業として全線が幅40mに拡幅された。この時、道路西側が”軒切り”されたため、南部の多くの寺がセットバックし鉄筋コンクリート造りに建替えられている。

・市電は昭和35年に廃止され、昭和42年3月に、地下鉄谷町線の東梅田駅～谷町4丁目駅が開業し、翌年12月には天王寺駅まで延伸された。現在の、大日～八尾南間が全線開通したのは、昭和58年2月である。

・明治に入って大阪城内や周辺部が軍事的土地利用に転換されたため、隣接する谷町筋の北部は、明治20年代から軍需に対応した洋服仕立て業や既製服製造業の同業者街として発展し、大正期の谷町には約80軒の関連業者が集中(1～3丁目は主に製造卸、4～6丁目には小売商)していた。維新後に大阪の警備にあたった”浪花隊”が着用した”ダルマ服”もこの地域で調達されたとされる。しかし、建物の過密化や交通渋滞の激化に伴って、昭和38年以降から一部が枚方市の既製服工業団地へ集団移転し、今はその様相を異にしている。また、中部の安堂寺町から谷町7丁目付近は、金属製品・機械部品・工具類を扱う問屋が多く、南部には、近世初頭に都市防衛線として形成された寺町が連なっている。

「松屋町筋」について

・かつては、天神橋以北と同様に「天神橋筋」と呼ばれていたが、文化3年(1806)の「増修改正・摂州大坂地図」で「松や町スジ」と記されているのが、初めてとされる。

その名は、松屋長右衛門という軍馬の鞍師が住まいしていたことからとも言われている。

・現在は、天神橋交叉点(土佐堀通)から天王寺区天王寺公園北口交叉点に至る、南北約4.1kmの幹線道路で、うち天神橋交叉点～学園坂交叉点(天王寺区)間は、昭和45年1月から南行き的一方通行となっている。

・大阪市第1次都市計画事業に伴って、昭和7年から道路拡幅工事に着手され、昭和13年(1938)7月にそれまでの3.3間幅から13間幅に拡幅された。

・内久宝寺町辺りから南部には、雛人形・五月人形や玩具、駄菓子などの問屋が多く並び、地元の人には「まっちゃまちすじ」(又は「ごっちゃまちすじ」)の名で親しまれている。

・また、地下鉄谷町線の当初計画では、南森町～天王寺間について、松屋町筋の地下を通るルートになっていたが、その後、谷町筋に計画変更されたといういきさつが残っている。

○「本町通」と「中央大通」

「本町通」について

・大阪市のほぼ中央を東西に走る主要道路で、西区の川口交差点から中央区の城南交差点までの約4.4km、城南交差点で「中央大通」に交わる。

沿線には、商社や卸売り問屋などが集中するオフィス街が集中している。

・江戸時代より船場のほぼ中央を東西に貫通して、大坂三郷のうち北組と南組の境界を成しており、当時の東端は大坂城南西角（現在の馬場町交差点）で、西端は百間堀川であった。
・大正2年（1913）に市電本町線（川口町～谷町3丁目）が開通し、昭和4年（1929）に市電城南線（馬場町～森之宮東の町）の敷設に伴って本町通も馬場町から東に延伸され、ほぼ現在の姿になった。なお、市電は昭和39年10月に廃止された。

「中央大通」について

・本町通の南側を東西に通る大阪市道築港深江線の通称。西端は朝潮橋交差点付近であるが、東端はやぶさかでなく、大阪内環状線の深江橋交差点や遠くは近鉄・新石切駅前の東山町交差点ともされている。

幅員は最大80m、車線数は最大14あり、道路の中央を阪神高速16号大阪港線・13号東大阪線が通っていて、船場地区ではその阪神高速および高架道路下が「船場センタービル」となっている。昭和45年3月に貫通した。

・地下には、地下鉄中央線（住之江区・コスモスクエア駅～東大阪市・長田駅）・近鉄けいはんな線（長田駅～学研奈良登美ヶ丘駅）が走っている。

地下鉄中央線は、昭和36年12月に大阪港駅～弁天町駅間（3.1 km）が開業、次いで昭和39年10月に弁天町駅～本町駅間、昭和42年9月に谷町四丁目駅～森ノ宮駅間、昭和43年7月に森ノ宮駅～深江橋駅間、昭和60年4月に深江橋駅～長田駅間と順次開通した。

なお、本町駅周辺の立ち退きが遅れたため本町駅～谷町四丁目駅間が開通したのは昭和44年12月で、3年間程は東部と西部で2区間に分かれて運転していた

さらに、平成9年12月にOTSテクノポート線大阪港駅～コスモスクエア駅間が開業して全線開通した。

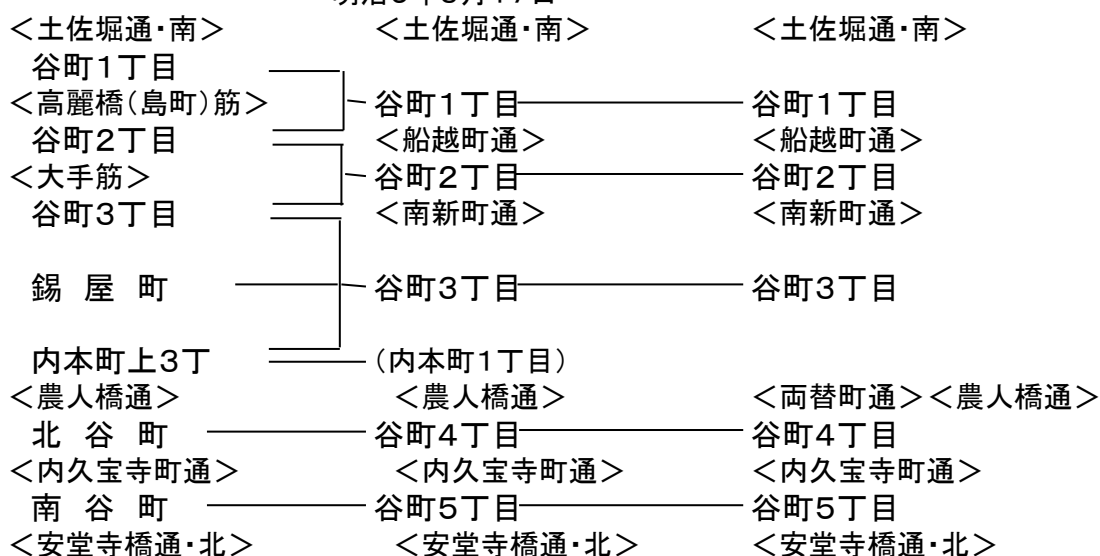
・昭和61年10月には近鉄東大阪線（現・けいはんな線）長田駅～生駒駅間が開業し、平成18年3月からは、コスモスクエア駅から学研奈良登美ヶ丘駅までの相互直通運転が行われている。

2. 「谷町・大江地区」の町々

○「谷町1丁目～5丁目」

オフィス・官庁街

明治5年3月17日



・谷町筋を中心にして北から1丁目～5丁目と続く縦長の町（谷町6丁目以南は旧・南区）

・「谷町1丁目」

「京阪ホテル天満橋」

谷町1丁目2-10

・昭和54年にオープンした京阪電鉄グループのホテル（10階建・客室数317室）で、平成27年に改築され、1階には居酒屋ダイニング「満天」がある。

「大阪府土木建築共同組合」(大手前建設会館) 谷町1丁目3-27

・昭和22年4月、大阪府下の中小建設業者により設立された「大阪府土木建築共同組合」(昭和25年改称)が入る「大手前建設会館」(地上4階・地下1階建)は、昭和34年11月に建設され、平成4年にリニューアルされている。

「近畿税理士会館(大同生命ビル)」 谷町1丁目5-4

・近畿税理士会は、昭和39年7月に大阪国税局管轄域内にあった5つの税理士会が合併して設立されたもので、昭和59年6月に現在の名に改称された。

現在は、平成10年7月竣工の「近畿税理士会館・大同生命ビル」(11階建)となっている。

「欣浄(コンジヨウ)寺」 谷町1丁目4-5(もと谷町2丁目)

・浄土真宗高田派の寺院で、天正年間(1573~92)の末頃、伊勢の僧・慶孝が開創した。初め空谷山光尊寺といい、内本町辺りにあったが、戦乱で失ったのち徳川氏の命令で現在地に移りその名も改められた。徳川家の旗印である「欣求浄土」から、2字をとって「紫光山欣浄寺」とされた。「谷町御堂」とも称され、本尊の阿弥陀仏は安阿弥の作。

・寺宝として幾多の難を逃れてきた所蔵の「絹本着色・玉日姫像」は、親鸞聖人の婦人である玉日姫を描いたもので、桃山時代の作と推定され、大阪府の指定文化財となっている。

・『摂津名所図会』には「高田専修寺懸所、谷町二丁目にあり。勢州一身田の懸所、欣浄寺と号す。自庵御坊なり。」とある。

・「谷町2丁目」

「大阪第2法務合同庁舎」(「大阪法務局」) 谷町2丁目1-17

・谷町筋東側に建つ7階建てビルで、「大阪法務局」(本局)の庁舎として使用されており、「近畿公安調査局」や「近畿管区警察局」も入っている。かつて「大阪入国管理局」も置かれていたが、平成19年、住之江区南港に新庁舎が建てられ移転した。

・付近には不動産登記や法律関連の司法書士事務所が多く集まっている。

「大阪府議会会館」 谷町2丁目2-6

・昭和37年5月、府議会議員の福利厚生施設として大阪府庁舎の西側に建てられた2階建ての建物であるが、老朽化などを理由に使用が停止され、現在は会議室などとして暫定的に使われている。

「アルス大手前プレミア」 谷町2丁目1-20

・平成17年1月竣工の地上15階地下1階建分譲・賃貸タワーマンション。総戸数86戸。

「サンクレイドル大手前」 谷町2丁目2-13

・平成28年9月竣工の地上15階地下1階建分譲タワーマンション。総戸数64戸。

「イトーピア大手前」 谷町2丁目5-6

・平成16年1月竣工の地上15階建分譲タワーマンション。総戸数40戸。

・「谷町3丁目」

「此界限 井原西鶴終焉之地」碑 谷町3丁目2(旧・錫屋町)

・石碑と辞世の句碑が谷町筋の東側歩道に並んで建っている。

句碑:「難波俳林松寿軒西鶴 辞世 人間五十年の究りそれさへ我にあまりたるに ましてや ”浮世の月 見過ごしにけり 末(スエ)2年” 元禄6年8月10日 52才」

句碑裏銘板:「元禄6年8月10日井原西鶴はこの地谷町3丁目(旧錫屋町)東側で没した。享年52歳。西鶴没後三百年を記念して、この碑を建てる。平成5年9月25日」

石碑・左側面=「大晦日 定なき世の 定か」の句が記されている。

・西鶴は、「大坂谷町筋四丁目すゞ屋町ひがしがは(錫屋町東側)」にあった西鶴庵で晩年を過ごしている。なお、墓は上本町4丁目の「誓願寺」にある。

大阪市立「愛光会館」

・昭和38年3月に母子家庭及び寡婦のための会館として建設されたもので、平成5年4月、中津に新会館が建設されて移転した。

「大阪銀行協会・本館」 谷町3丁目3-5

・昭和42年、谷町4丁目交差点の北西角に完成した8階建てビルで、大阪府内に本店・支店を有する銀行で組織する「大阪銀行協会」が、中之島1丁目(現・東洋陶磁美術館の地)から

移転してきた。

「日本福音ルーテル大阪教会」(「ホテル・ザ・ルーテル」) 谷町3丁目1-6

・日本福音ルーテル大阪教会は、16世紀の宗教改革者マルティン・ルターの流れをくむプロテスタント教会で、大阪では大正6年に天王寺区で伝道が始まったが、昭和29年(1954)、現在地に会堂が建てられた。その後、連盟からの援助を辞退して独立採算制をとることにして、昭和50年11月、漆黒の外装の「ホテル・ザ・ルーテル」(9階建て)を建設し、最上階に教会を設けた。平成13年にはこれを改築し、「日本福音ルーテル教会大阪会館」が完成した。

・平成13年12月にリニューアルオープンしたホテルは10階建て・客室数180室で、低層階には日本福音ルーテル教会の礼拝堂が併設されている。

「ホテル・サンホワイト大阪」 谷町3丁目7-6

・昭和60年開業のビジネスホテルで総客室数160室。1階に中華料理「桃園」がある。

・「谷町4丁目」 マンション街

「大阪谷町4丁目郵便局」 谷町4丁目8-13

「東横イン・大阪谷四交差点」 谷町4丁目11-1(地下鉄・谷町4丁目駅真上)

・平成19年1月開業の14階建てビジネスホテル。総客室数195室。

「ロイヤルタワー大阪谷町」 谷町4丁目4-17

・平成15年10月竣工の地上24階・地下1階建て分譲タワーマンション。総戸数144戸

「フォレストージュ谷町」 谷町4丁目8-12

・平成13年7月竣工の15階建て賃貸タワーマンション。総戸数108戸

「グランドパレス谷町四丁目」 谷町4丁目7-2

・平成27年8月竣工の15階建て分譲タワーマンション。総戸数55戸

「谷町四丁目シティハイツ」 谷町4丁目8-30

・昭和61年4月に建築されたUR都市機構の15階建て賃貸マンション。総戸数194戸

・「谷町5丁目」

「大阪府福祉センター」(大阪ろうあ会館) 谷町5丁目4-13

・聴覚障害者の交流と社会参加の場として、また、母子家庭の方々の交流や社会活動の場として設置されたもので、建物は昭和52年築の地上6階・地下1階建て。

現在、森之宮地区への集約・移転が検討されている。

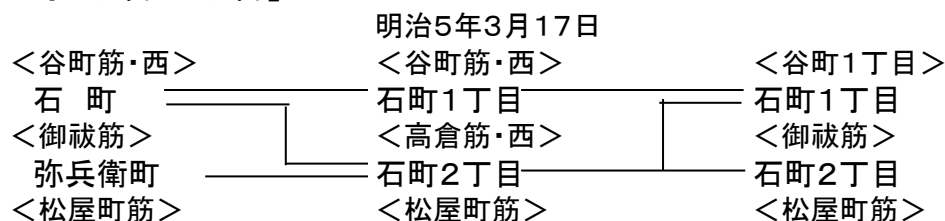
「ザ・パークハウス谷町五丁目」 谷町5丁目2-4

・平成26年1月竣工の25階建て分譲高層タワーマンション(高さ82m)。総戸数206戸

「ロイヤル谷町タワー」 谷町5丁目4-1

・平成13年8月竣工の地上20階・地下1階建て分譲タワーマンション。総戸数122戸

○「石町1丁目・2丁目」



・地名の由来については、坐摩神社行宮にある神功皇后の鎮座石の故事によるとの説が通説とされるが、江戸時代の『摂津名所図会大成』には、「当地は古代において、国府が所在し、「こくふ」が転じて「こく町」になったと言われている。」との説が紹介されている。

「三橋楼跡」 石町1丁目1(現・「天満橋ニュースカイハイツ」の前に説明板)

・「三橋楼」は、明治新政府の方針について話し合われた大阪会議に向けて、大久保利通、木戸孝允らが最初に意見交換を行った料亭とされており、現地の説明板には「幕末～明治中期、難波・天神・天満の三橋を北に望む高台にあった料亭で、明治8年(1875)1月8日に大阪会議に向けて大久保利通・木戸孝允による最初の会議が行われた。後にはハリストス正教会となった。」と記されている。

・大久保の日記にも、「明治8年正月8日。今日午後三字(時)比より於いて三橋樓 木戸子へ出会い心事詳細吐露、熟談致し、黒田氏も入来一字比散す」との記載が残されている。
 ・なお、大阪会議は、翌2月11日に、北浜の料亭「加賀伊」(のちの「花外楼」)で、大久保、木戸のほか伊藤博文、井上馨、板垣退助らが出席して開かれた。
 ・その後、西南戦争時には陸軍参謀部が置かれたようであるが、明治15年9月にその地をハリストス正教会に転売して、本町橋西詰に移転した。また、大阪ハリストス正教会は、第二次大戦の大空襲で焼失し、焼け跡に仮聖堂を建てて活動していたが、昭和37年4月、吹田に新しい聖堂が出来て移転した。

「坐摩神社行宮」と「御祓筋」 石町2丁目15

・豊臣秀吉の時代には、坐摩神社本宮がこの渡辺の地にあったが、天正11年(1583)に築城の際、本宮が現在地(久太郎町4丁目渡辺3号)に遷座され、その際に元あった地の地名である「渡辺」も共に移された。その跡地に置かれたのが行宮(アングウ=御旅所)である。
 ・その昔、神功皇后が朝鮮半島出兵の帰途、大江の岸に着船し、この神社の石に腰掛けられて休憩されたとする神石がある。そして安産祈願されてお生まれになったのが応神天皇であると伝えられる。
 ・奥の小祠には豊磐間戸神(トヨイワトカミ)と奇磐間戸神(クシイワトカミ)が祀られている。



「御祓筋」

・行宮の前(西側)の南北の道が「御祓筋」である。
 京から淀川を下り、八軒家で上陸してこの道を南へ四天王寺・住吉大社を経て熊野詣に出向いたことから古くから「熊野街道」として知られている。(土佐堀通との交点に「熊野街道の碑」がある)
 ・熊野街道沿いには、参詣者がその守護を祈願し休憩所としても使われた九十九の王子(神社)が置かれており、その第1番目の王子が坐摩神社行宮の地にあった「窪津王子」(渡辺王子)とされている。
 ・この八軒家から熊野までは陸路で往復に1ヶ月余りを要したとされるが、かつて後白河法皇は34回、後鳥羽上皇は20余回参詣されたとされており、そうした行幸の日には沿道の住人が道すじを清掃しお祓いしたことから御祓筋の名で呼ばれるようになったとされる。
 ・また、この御祓筋を南進し、安堂寺通を東に向かうと伊勢街道に通じており、明治30年頃まではお伊勢参り(片道5日程)の道としても賑わっていた。

「北大江公園」(もと「石町公園」と「楼の岸砦」)址 石町1丁目3ほか

・昭和35年5月開園の児童公園(5484㎡)。公園の中央が高倉筋にあたり、遊具エリアと広場エリアにわかれている。比較的樹木が多く、桜もきれい。

「楼の岸砦」址

・楼ノ岸砦は、織田信長と本願寺勢力が戦った石山合戦の際において織田信長が築いた砦であるが、石山本願寺の鉄砲攻撃を受けて奪取され、一時は本願寺勢力の防衛拠点となった。しかし、石山本願寺落城の際に周囲の砦と運命をともにしたとされる。
 跡地は、天満橋の西側、北大江公園から座摩神社あたりだと推定されているが、遺構も無く詳細は不明である。

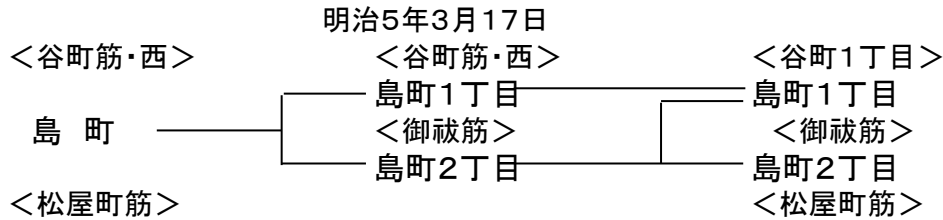
「蓮美幼稚学園てんまばしナーサリー」 石町2丁目1-7(天満橋グリーンコーポラス1階)

・平成19年4月に開設された私立の認可保育所。0才児~2才児の50名を定員とする。

「天満橋グリーンコーポラス」 石町2丁目1-7

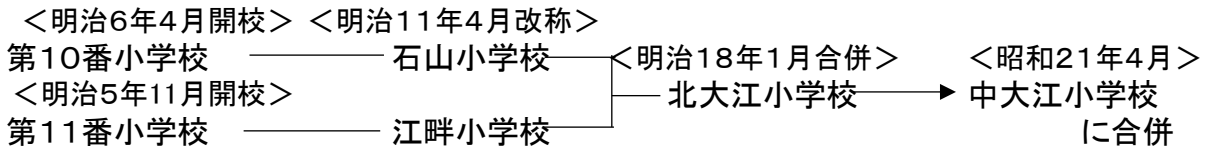
・昭和53年10月竣工の15階建て賃貸高層マンションで、総戸数は217戸。

○「島町1丁目・2丁目」 ビルとマンションが多い



・町名の由来は、この地に島左近の屋敷があったことによるとも言われるが定かでない。現存する大阪市街地絵図である明暦3年(1657)の「新板大坂之図」には「志まや丁」とある。

「北大江小学校」 島町1丁目



・明治18年(1885)1月、石山と江畔の両小学校が合併されて北大江小学校となり、江畔小学校が本校、石山小学校が分校となった。

・江畔小学校は、明治5年(1872)11月、東大組第11小学校区の島町2丁目39番地に開校したもので、明治11年4月に大江小学校と改称したが、同名の小学校があったため、江畔小学校と改称された。

学区域は、島町2丁目・船越町2丁目・釣鐘町2丁目・石町2丁目・京橋3丁目・高麗橋詰町であった。

・石山小学校は、明治6年(1873)4月、東大組第10小学校区の島町1丁目25番地に開校したもので、一時・島町小学校(明治8年)と称していたが、明治11年(1878)4月に大坂城の旧地である石山の名をとって石山小学校と改称された。

学区域は島町1丁目・船越町1丁目・釣鐘町1丁目・石町1丁目・谷町1丁目・京橋1丁目・同2丁目・京橋前之町・杉山町であった。

・明治28年(1895)5月、島町1丁目に新校舎が落成し移転した。

・昭和21年(1946)、尋常科が中大江国民学校に統合され、高等科単独の国民学校となったが、翌22年の学制改革により廃校となり、跡地は新制・大阪市立東第一中学校(のち大阪市立東中学校)に転用された。

「市立東中学校」と「市立中央高等学校」

「市立東中学校」 島町1丁目21

・昭和22年(1947)の学制改革により、同年4月、「東第一中学校」として北大江小学校校舎に開校したもので、翌年5月に「東中学校」と称せられた。

・当時は東区内唯一の中学校で第1学年は7学級で成っていたが、戦災復興に伴って生徒数が増加し、昭和24年(1949)には戦災で廃校となった旧中大江東国民学校跡に分教場が設置され、翌25年4月に分離・独立して「船場中学校」となった。それにより、中大江、南大江、玉造の3小学校が校区となった。

・なお、昭和33年2月にはインドネシアのスカルノ大統領が訪問されている。

・しかし、生徒数は昭和36年の2708名をピークに減少し、昭和54年には827名と1/3以下となった。そこで、昭和63年に「船場中学校」と統合されることになって3月末に閉校し、4月からは大手前4丁目に新設された校舎に移転して、新しい「市立東中学校」として再スタートした。

「市立中央高等学校」 釣鐘町1丁目1-5

・平成4年4月、大阪市立の定時制商業高校4校(扇町第二商業、天王寺第二商業、西第二商業、新船場)を統合して開校した。当初は、定時制課程(学年制)と単位制課程を設置していたが、平成18年3月からは、昼夜間単位制となっている。

④ 昼夜間単位制＝自分のライフスタイルや進路希望、興味・関心に合わせて、1・2時限目(10:50～12:25)から9・10時限目(19:30～21:05)の授業を自由に選択可能。

3年～6年で、必修科目を含め74単位以上修得で卒業。(他校での実績を含む)

・この地は、戦前、北大江尋常小学校(戦後、大阪市立中大江小学校に統合され廃校)があったが、昭和22年(1947)から昭和63年(1988)まで市立東中学校として使われていた。

「北大江幼稚園」

島町2丁目

- ・明治19年(1886)3月、島町2丁目39番地に北大江保育科が設置され、明治26年4月に北大江幼稚園となった。
- ・明治28年(1895)5月、新校舎に移転した北大江尋常小学校の旧校舎が幼稚園舎となり、明治36年には東側敷地224坪を購入して、明治43年3月には新園舎が建設された。

「大乃や」

島町1丁目3-5(大江北公園の南筋向い)

- ・昭和26年創業、懐石料理主体の老舗高級料亭。

「長光寺」

島町2丁目2-19

雄郷 覚昭

- ・浄土真宗西本願寺派の寺院。元和4年(1618)に浄誓が近江から大阪に出て釣鐘町に建立した寺を、寛永13年(1636)に当所に移転したもの。
- ・「10代住職・龍護は長州・萩の出身、京都へ来て、今の龍谷大学の前身である本願寺派の学校で奥義をきわめ、本願寺派の興隆に力を尽した。文政9年(1826)、大坂へ来て長光寺の9代・覚順の養子となった。また、詩文・書画にすぐれ、篠崎小竹・広瀬旭荘らと親しく、勤皇の僧・月性を匿ったりした。龍護は多くの著書を残して安政3年(1856)歿した。長光寺は舟運の便を得ているので、幕末には坂本龍馬・吉田松陰らが来泊し、庫裏の3階で倒幕の謀議をこらしたことがあり、それをかぎつけた新撰組が近くの宿をとったと伝えられている。寺の土蔵は大塩平八郎の乱や過般の戦災にも焼けずに済んだので、幕末時を語る多くの古文書が所蔵されている。また、独身時代の画家・菅楯彦が寄寓していたこともある。」

(16代住職・雄郷了勝の筆)

寺の前に「維新史跡 贈正四位 僧 月性 龍護遺跡 長光寺」と刻した石碑が建つ。

- ④ 月性は、長州の僧で詩人として広く名が知られるが、海防の急務を説いて激しく尊皇攘夷を主張して、吉田松陰とも親しく、安政5年(1858)には松下村塾生と藩政府の対立を調停するなど松陰のために尽した。

龍護は、長光寺の住職で、月性の叔父にあたる。

- ・また、釣鐘屋敷の釣鐘が、明治3年に鐘楼が撤去された時から明治5年に江畔小学校に移される迄、長光寺に預けられていた。

「安井建築設計事務所」

島町2丁目2-19

- ・大正13年(1924)創業。代表作品に「大坂ガスビル」、「東京国立博物館・平成館」等がある。

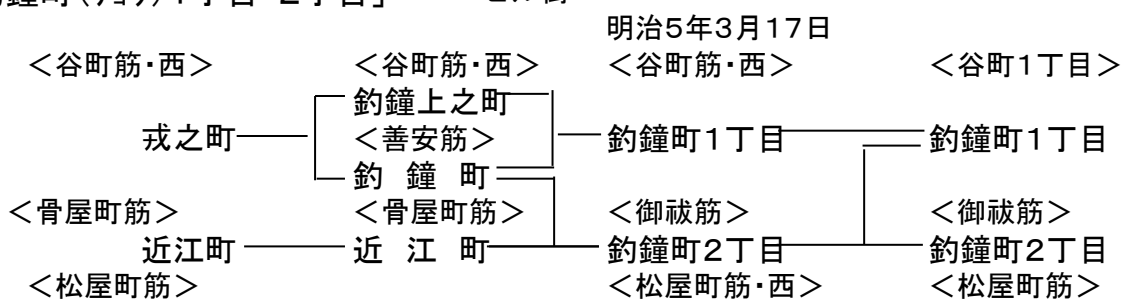
「グランシス天満橋」

島町1丁目2-12

- ・平成19年5月竣工の15階建て賃貸タワーマンション。総戸数164戸。

○「釣鐘町(チヨウ)1丁目・2丁目」

ビル街



- ・町名は、江戸時代、当地に釣鐘屋敷があったことに因む。
- ・旧町名の「近江町」は、近江屋という屋敷があったことに因む。

「釣鐘屋敷」(時の鐘＝「大坂町中時報鐘」)

釣鐘町2丁目2-11

- ・寛永11年(1634)、3代将軍・徳川家光が大坂城を訪れた際、大坂三郷の地子銀(固定資産税)を永久に免除することを約束した。これに感謝した人々は鐘楼を建てて時刻を報じ、永くその恩恵を記念した。
- その時の経緯について『東区史』には、「当時、三郷の地子銀は1ヶ年178貫934匁余であって、この巨額の地子銀を永代免除されたのであるから、郷民が感激したのも尤もなことである。茲において惣年寄等評議して、後世子孫をして永くこの恩恵を忘れしめぬ為、釣鐘を鑄て時刻を報ずるに如かずとなし、南組惣年寄・安井九兵衛、天満組同・中村左近右衛門の両人が惣代となり、同月28日、将軍帰路のあとを追って伏見に至り、既に発駕せんとする

老中に謁し願書を上った。右の願書は將軍帰府の後許可せられ、特に鑄造並びに鐘樓普請の料として銀80貫目を下賜された。依って鐘銘を谷町筋寺町西側・禪宗大仙寺の龍巖和尚に請ひ、鑄造場を野原の川端にて運漕の便ある二つ井戸付近に設け、之が鑄造を天満裏門大工町の鑄物師・釜屋宗左衛門に託することとし、且下賜の銀をば『普請入費に相償ふは冥加多し』とて、釣鐘の中に鑄込むことにした。」と記されている。

鐘の大きさは、高さ1.9m、直径1.1mで、重さ3トンある。

・三郷から扶持を与えて当番2名を置き、時を報じさせたが、堂下に線香を燻らしその尺度によって時を計ったということである。

・その後、鐘樓は、万治3年(1660)、宝永5年(1708)、享保9年(1724)、天保8年(1837)の4回焼失した。

その都度再建されてきたが、明治3年(1870)に鐘樓は撤去されることになり、釣鐘は一時近くの長光寺に預けられたあと、府立博物館などを経て、大正15年(1926)より大阪府庁屋上に「大坂町中時報鐘」として保存されていたもので、昭和60年(1985)、地元有志の努力によって、元の場所に鐘樓が建てられ、復活した。

再興された鐘樓のネライについて設計者は、“4度の火災をくぐりぬけ、変らぬ音色を持つ名鐘を讃え、官民の力の輪によって5度目の鐘樓に里帰りするという意味で屋根を5つの輪とする。この塔は、時計の長・短針が重なった0時(スタート)を指す形とし、高さは建築時(宝暦9年)の高樓の高さ9間にちなんで約16mとする。”としている。

・現在はコンピューター制御により、1日3回(朝3時・12時・日没)、鐘の音を響かせているが、当時は一刻(2時間)おきに1日12回撞かれていた。

<参考>

”曾根崎心中と鐘—300年の時空を超えて 今も寂滅為楽の響き—”

「遊女お初と醤油屋手代の徳兵衛の情死を題材にした近松門左衛門が書いた浄瑠璃『曾根崎心中』の最期の道行の場面は、次の有名な言葉で始まる。”此世の名残 夜も名残 死に行き身をたとふれば、あだしが原の道の霜…あれ数ふれば暁の七ツの時が六ツ鳴りて 残る一ツが今生の 鐘の響きの聞き納め 寂滅為楽と響くなり” 弘暁の曾根崎・天神の森で実際に心中があったのが、元禄16年(1703)4月7日。それから丁度300年。2人が末期に聞いた同じ鐘が今も鳴っているのをご存知だろうか。天満橋近くのビル群の中にある「時の鐘」。江戸初め、幕府から大坂の地代が永代免除された祝いに町人が資金を出し合って鑄造した。」

(当時の「読売新聞」より)

・また、釣鐘屋敷に隣接した東南に「火の見櫓」が建てられていた。宝暦9年(1759)正月、時の大坂城代・井上河内守が江戸にならって建てたもので、高さ7間半、上に半鐘を懸けて昼夜市中を望見し出火があれば、鐘を打って報じたもので、市中のあった櫓の最初である。

「日限(ヒギリ)地蔵尊」

釣鐘町2丁目

・その由来記によると、「御本尊は地蔵菩薩、恵心僧都の作にて、聖徳太子の時代より平家全盛の頃、平清盛・重盛の守り本尊となり、また京都黒谷および知恩院に奉安していた。徳川時代の万延年間(1860)、摂津国の島町に知恩院の出張所である華頂御殿御屋敷があり、御屋敷の長・石田阿波守の御勧請によって遷座された。」とされる。

その頃、鴻池家はこの本尊に篤信を捧げられており、丁度難病に罹られた子息が侍医にも見放された時、母君が当本尊に3日を限り熱願を捧げられた結果、靈驗あらたかに快癒されたことから、この恩赦として鴻池家から高縁左京・作の地蔵菩薩が奉納された。

・明治になって毎月4の日の縁日には夜店が群をなしたが、戦災を受けて島町から当地へ遷座復興され、現在に至っており、今なお、庶民の心の願いとして老若男女の参詣が絶えないとされている。

「山村与助の屋敷」

・その屋敷は判然としていないが、大坂三町人のひとりである山村与助が釣鐘町に住まいし



・現在、島町筋(高麗橋筋)南側のにある三精ビルの前に碑が建てられている。

「里程元標跡」 東高麗橋6

・江戸時代に高麗橋東詰めが道路起点と定められたもので、京街道・中国街道・紀州街道などの距離や車馬賃を算定する時の起点となった。
(現在の元標は、昭和27年の新道路法成立時に「大阪市道路元標」として、梅田新道交差点の北西角に設置されている。…国道1号線の終点&2号線の起点)

「ブレサンス中之島公園パークレジデンス」 東高麗橋1-30

・平成17年10月竣工の15階で賃貸タワーマンション。総戸数87戸。

「グランコーポ東高麗橋」 東高麗橋2-5

・平成11年7月竣工の15階で分譲タワーマンション。総戸数62戸。

「メロディハイム高麗橋」 東高麗橋2-24

・平成10年2月竣工の15階で分譲・賃貸タワーマンション。総戸数56戸。

「セレニテ北浜」 東高麗橋2-33

・平成24年4月竣工の15階で賃貸タワーマンション。総戸数140戸。

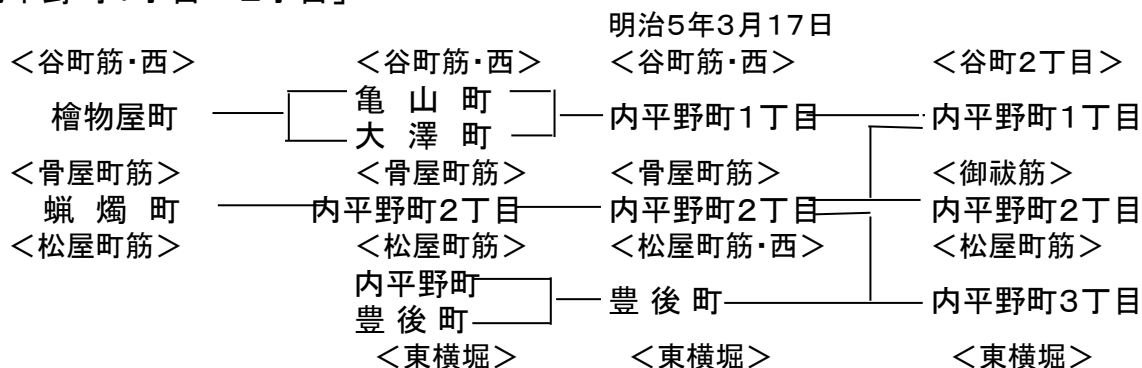
「パークキューブ北浜」 東高麗橋2-39

・平成19年4月竣工の15階で賃貸タワーマンション。総戸数138戸。

「ニューライフ高麗橋」 東高麗橋3-32

・昭和62年2月竣工の15階で賃貸タワーマンション。総戸数125戸。

○「内平野町1丁目～2丁目」



・町名に「内」が付く町は、大阪城内(惣構内=東横堀川の東)の町を示す。(以下、同じ)

・町名は、平野郷からの移住者による町であることによる。

・「内平野町3丁目」は、平成元年2月(中央区になった時)に新しく誕生した町名である。

・内平野町2丁目に、かつて「神明神社」があった。元和元年に松平忠明が京都の西院から移したとされており、毎月1・6の日の夜店と毎年6月29日の夏越大祓は有名であった。

「大阪高麗橋郵便局」 内平野町2丁目3-13

「(株)カプコン」 内平野町3丁目1-3

・業務用、家庭用ゲームの開発・販売を行うゲームメーカーで、昭和54年5月、IRM(株)として松原市に設立され、平成元年(1989)に商号を「(株)カプコン」に変更し、本店を大阪市東区に移転。平成6年7月、現在地に本社ビルが完成し移転した。

”大阪から世界へ”のもと、独自な方法でリアルな格闘ゲームソフト開発に取り組んでいる。

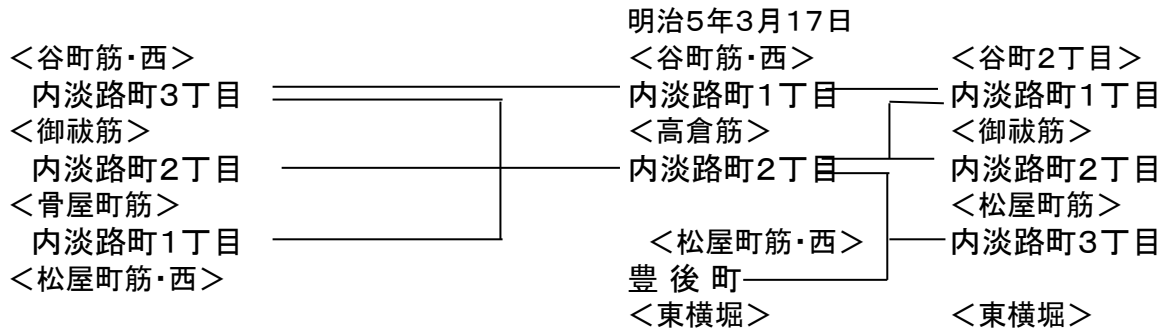
「林純薬工業(株)」 平野町3丁目2-12

・明治37年(1904)、道修町にて林亦吉商店として化学薬品販売業を創業。昭和7年4月に「林純薬工業(株)」と商号変更し、平成9年3月、現在地に本社を移転した。
試験研究用の試薬化成品や電子デバイスの製造プロセス用機能性薬液などを製造販売。

「ネバーランド大手前ブランシェ」 内平野町2丁目4-16

・平成15年6月竣工の15階で分譲タワーマンションで、総戸数は44戸。

○「内淡路町1～3丁目」 ビル街



・「内淡路町3丁目」は、平成元年2月に新しく誕生した町名である。

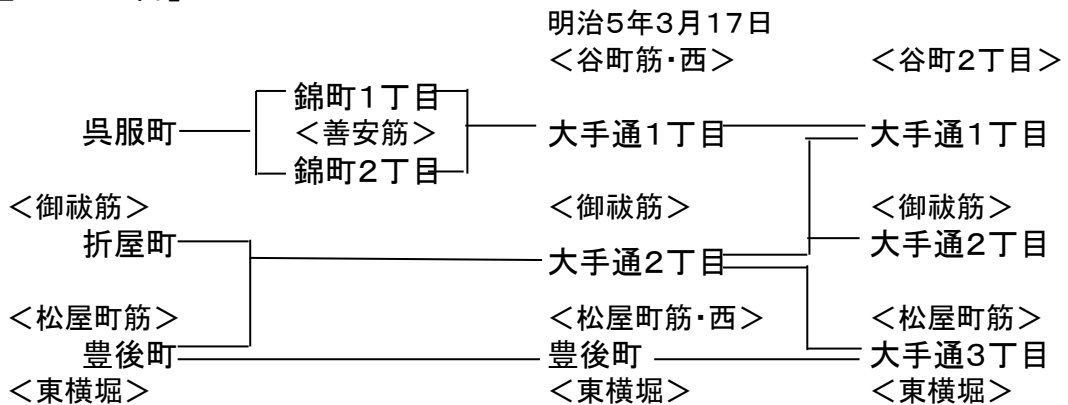
「小西医療器(株)」 内淡路町2丁目1-5

・昭和21年3月に医療用機器及び器具の販売会社として天満橋で創業されたもので、平成20年2月、内淡路町2丁目に本社ビルが新築され、移転してきた。

「ランアップスクエア大阪城西」 内淡路町1丁目2-3

・平成17年8月竣工の15階建て賃貸タワーマンションで、総戸数は84戸。

○「大手通1～3丁目」 伏見町人の移住した町 住宅地域



・町名は、「大阪城大手門に通じる通り」という意味で付けられたもの。

・旧町名の呉服町・錦町などは、伏見の地名を移したもの。

・「大手通3丁目」は、平成元年2月に新しく誕生した町名である。

「大手橋(思案橋)」について

・大手通の西詰、東横堀川に架かる橋で、橋の西詰は道がT字形になっている。大坂城の正面である追手口(大手口)に通じるため、防衛上の観点から見通しを悪くしたものと考えられており、かつては「思案橋」と呼ばれていた(「大手橋」の名称は明治以降)。橋を渡ったT字路を「北に行こうか、南に行くか」と思案したことによるとされる。もう一説には、秀吉から名前を付けるよう命じられた増田長盛が思案して決められなかったとの話がある。

「大阪活版所跡」 大手通2丁目4

・明治3年(1870)、五代友厚の懇望をうけた本木昌造が設計創設した活版所跡で、大阪の近代印刷はここからはじまったと言われる。

・昌造は、幕末長崎のオランダ通詞(通訳)で、職業がら洋書に広く接し、外国に遅れをとるわが国の印刷術の現状(木版印刷)を憂い、種々文献により研究を続けて、嘉永4年(1851)、ついに鉛の流し込みによるわが国最初の活字の鑄造に成功した。

「大塚化学(株)」 大手通3丁目3-27

・昭和25年(1950)に大塚製薬工場より有機化学部門を分離し、「大塚化学薬品株式会社」を設立。オロナミンCの事業を手がけている。

・平成元年、本社を現在地に移転している。

「東横イン天満橋大手前」 大手通1丁目4-15

・平成12年(2000)5月オープンビジネスホテル。11階建てで総室数は119室。

「グランドメゾン大手前タワー」

大手通1丁目3-11

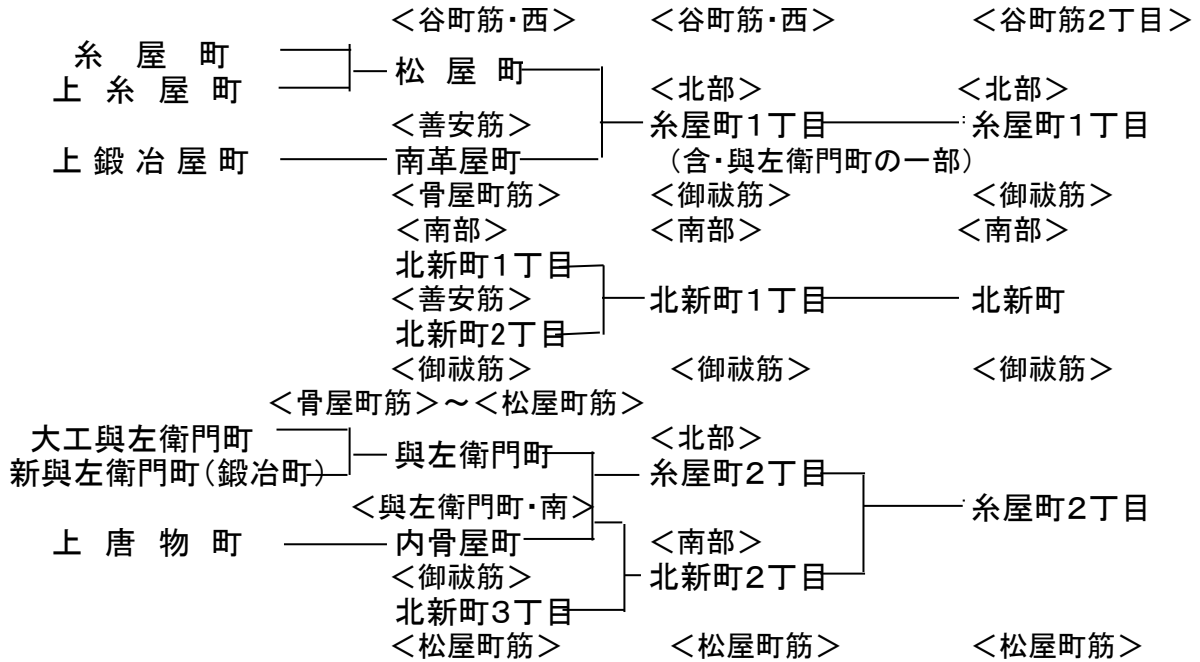
・平成17年(2005)4月竣工の地上25階・地下1階建(86m)分譲タワーマンションで総戸数は90戸。

○「糸屋町1~2丁目、北新町」

伏見町人の移住した町

商業地域

明治5年3月17日



・旧町名の「南革屋町」は、御城御用の革商人が多く住んでいたことによる。

「與左衛門町牢屋」

糸屋町2丁目(もと與左衛門町)

・俗に「松屋町牢屋」或いは「松屋町本牢」とも呼ばれた。

・当初、本牢のみであったが、元文4四年(1739)に揚屋敷と新牢が新設され、次いで寛保2年(1742)、牢屋敷盗賊吟味所と吟味場が設置された。

“東を表門とし、北側35間5尺余、南側31間3尺、東側23間3尺、西側25間余で、総坪数829坪”であった。

・天保8年(1837)2月の”大塩平八郎の乱”で牢屋敷は類焼したが、翌年には同じ場所で再建され、この時に表門が西に変えられ、総坪数は約千坪となった。

・記録によると、牢番は、初め罪人を出した町々から徴していたが、元和8年以降は、市中の髪結床がこれにあたることとされた。しかし、天保14年(1843)からは、入札による番人定請負制が定められたとされる。

・明治維新後も存続していたが、明治14年(1881)に「松屋町監獄分署」と改称され、明治18年(1885)12月、「堀川監獄分署」(北区南扇町)に合併移転された。

その後、この地の大部分は「中大江国民学校」(現・中大江小学校)の敷地となったが、もと敷地内にあった稲荷大明神は松屋町筋沿いの民家に移された。

「市立中大江小学校」

糸屋町2丁目3-14(もと與左衛門町)

<明治6年3月開校> <明治8年7月改称>

第6番小学校 ————— 徳井小学校

<明治6年6月開校>

第7番小学校 ————— 松江小学校

<明治6年12月開校>

第8番小学校 ————— 亀山小学校

<明治7年2月開校>

第9番小学校 ————— 大手小学校

<明治45年4月創設>

中大江東小学校

<明治18年7月合併>

中大江小学校

中大江小学校

・明治18年(1885)7月、徳井、松江、亀山と大手の4小学校が合併されて「中大江小学校」となり、大手小学校が本校、松江小学校が第1分校、亀山小学校が第2分校、徳井小学校が第3分校となった。

・「徳井小学校」は、明治6年(1873)3月、第6番小学校と称して開校したもので、明治8年7月に徳井小学校と改称された。

学区域は、常盤町1丁目・鎗屋町1丁目・内本町1丁目・徳井町1丁目・南新町1丁目・谷町3丁目であった。

・「松江小学校」は、明治6年(1873)6月、第7番小学校と称して開校したもので、明治8年7月に松江小学校と改称された。

学区域は、常盤町2丁目・鎗屋町2丁目・内本町2丁目・徳井町2丁目・南新町2丁目・内本町橋詰町であった。

・「亀山小学校」は、明治6年(1873)12月、第8番小学校と称して開校したもので、明治8年7月に亀山小学校と改称された。

学区域は、北新町1丁目・糸屋町1丁目・大手通1丁目・内淡路町1丁目・内平野町1丁目・谷町2丁目であった。

・「大手小学校」は、明治7年(1874)2月、第9番小学校と称して開校したもので、明治8年7月に大手小学校と改称された。明治17年10月に校舎を増築し、明治18年7月、中大江小学校の本校となった。

学区域は、北新町2丁目・糸屋町2丁目・大手通2丁目・内淡路町2丁目・内平野町2丁目・豊後町であった。

・明治23年に旧・大手の本校を第一高等小学校に貸与することになって、旧・松江小学校を本校とし、旧・亀山小学校を第1分校、旧・徳井小学校を第2分校とした。

・明治27年(1894)5月、糸屋町2丁目11番地(現在地)に校舎が新築され、1校舎となった。

大正13年9月には 当時では珍しい鉄筋コンクリート4階建校舎が竣工している。

なお、この地は江戸時代には「與左衛門町牢屋」(上記)があった所である。

・昭和21年(1946)4月に北大江、中大江、中大江東(下記)の3小学校(当時、国民学校)が合併して、「中大江小学校」となった。

・昭和28年3月、北新町の道路廃止に伴って校地が拡大され、32年に図書館を新設、41年にはプールが改築された。

・戦災復興に伴って児童数が増加し、昭和33年には1270人・25学級とピークであったが、その後は過疎減少化が進み、昭和54年には、435人・13学級と約1/3になっていた。

・なお、昭和7年2月に泉佐野市の日根野小学校が明治32年建築とされる木造2階建て講堂の建物を買い取って移築し、校舎として使用してきたが、平成16年夏に新校舎建設に伴って撤去されることになり、「築106年の旧小学校校舎が、惜しまれつつこの夏解体される！」として、新聞報道された。



旧校舎の玄関と全景(右)



「市立中大江東小学校」 糸屋町1丁目

・本校は、中大江尋常小学校が、明治32年に20学級、同44年には30学級と就学児童数が急増したため、1校増設が必要となり、明治45年4月に元・第二高等小学校(糸屋町1丁目)の校地と校舎を買収して開校し、中大江尋常小学校の13学級を收容した。

学区域は、同小学校の東半分を分かち、旧・徳井小学校と亀山小学校の区域および大手前之町、馬場町とした。

・なお、大正12年(1923)には市立小学校で初めてとなる知的障害児対象の特別学級が開設されている。

・昭和20年の空襲で校舎が半焼したこともあり、昭和21年(1946)4月に中大江小学校と併合され廃校となった。

その跡地は、相愛学園の仮校舎として使用されたのち、昭和25年(1950)に「大阪市立船場中学校」が設置された。

「市立中大江幼稚園」

南新町2丁目4-8(中大江小学校の南側)

- ・明治18年(1885)11月、徳井小学校内に「中大江小学校附属幼稚園科」として開園し、翌年2月に中大江幼稚園に改称、明治40年には北新町2丁目に移転した。
 - ・戦災の影響で休園していたが、昭和23年11月、銅座幼稚園の分園として中大江小学校内で再開され、昭和24年(1949)4月に「市立中大江幼稚園」として再発足。昭和31年11月に小学校敷地内の南側に建設された独立園舎に移って現在に至っている。
- 現在は、3~5歳児の園児90人定員で3学級構成になっている。

「市立船場中学校」(現「ビオール大阪・大手前タワー」) 糸屋町1丁目2-11

「市立船場中学校」

- ・昭和24年(1949)4月、「東中学校」の分教場として旧・中大江東国民学校校舎を引継いで設置され、翌昭和25年(1950)5月に、独立校「市立船場中学校」として開校した。
- ・船場の集英・愛日小学校を校区としており、昭和29年にはPTAから洋傘400本が寄贈され、30年には全教室にガスストーブが設置される等”さすがは船場の中学校”と他校から羨ましがられた。
- ・船場地区のビル街化、常住人口の減少から生徒数は開校時の695名から昭和60年代には109名(廃止時)まで減少し、昭和63年(1988)4月に「東中学校」と統合され大手前4丁目に新築された校舎で、新しい「東中学校」となった。
- ・船場中学校の跡地は、平成4年(1992)11月に旧関西電力扇町営業所跡地(現・北区役所、キッズプラザ大阪)と土地交換されて関西電力所有となり、扇町営業所が移転される計画もあったが、計画変更され、平成19年(2007)1月に、超高層マンション「ビオール大阪・大手前タワー」(40階地下2階建・307戸・高さ134.7m)が建設されて現在に至っている。

「中大江公園」(北新町公園) 糸屋町2丁目2-2

- ・中大江小学校の東側にある約1万㎡の公園。昭和37年10月の開園。
- 1周330mのジョギングコースもあり、ちょっとした桜の名所でもある。
- ・公園北端には、昭和61年8月完成の「中大江公園集会所(老人憩の家)」が置かれている。
- ・公園内に「宇野浩二文学碑」がある。

「宇野浩二文学碑(「清二郎 夢見る子」の一節)」

- ・宇野浩二(本名:宇野格次郎)は、明治24年(1891)に福岡市で生まれ、幼少期を大阪の糸屋町(中大江公園界隈)や宗右衛門町で過ごした。
- 大正8年(1919)に発表した『蔵の中』で新進作家としての地歩を確立したが、、妻と愛人との板挟みなどから精神異常に陥って入院。昭和8年(1933)に『枯れ木のある風景』で復帰すると作風が一変し、昭和23年(1948)の『思ひ川』など、無飾の文体で冷徹に現実を見つめる作風となり、「文学の鬼」と呼ばれた。

「日本聖公会・大阪聖ヨハネ教会」 糸屋町2丁目1-11

- ・明治21年(1888)5月、道修町1丁目に設立され、戦前からこの地にあったが、礼拝堂が戦災で焼失したため、昭和26年に現在の礼拝堂が再建された。

「寿光寺」

北新町(もと北新町1丁目)

- ・浄土真宗本願寺派も寺院で、天文9年、山城国に草創され、慶安4年(1651)に当初に移転して貞享元年(1684)、現在の寺名に改められた。

「ビオール大阪大手前タワー」 糸屋町1丁目2-11

- ・平成19年2月竣工の地上40階・地下2階建て超高層(135m)分譲タワーマンション。
- 総戸数は307戸

「エステムプラザ大手前エヴァース」 糸屋町1丁目1-6

- ・平成24年1月竣工の地上15階・地下1階建て賃貸・分譲タワーマンション。総戸数は145戸

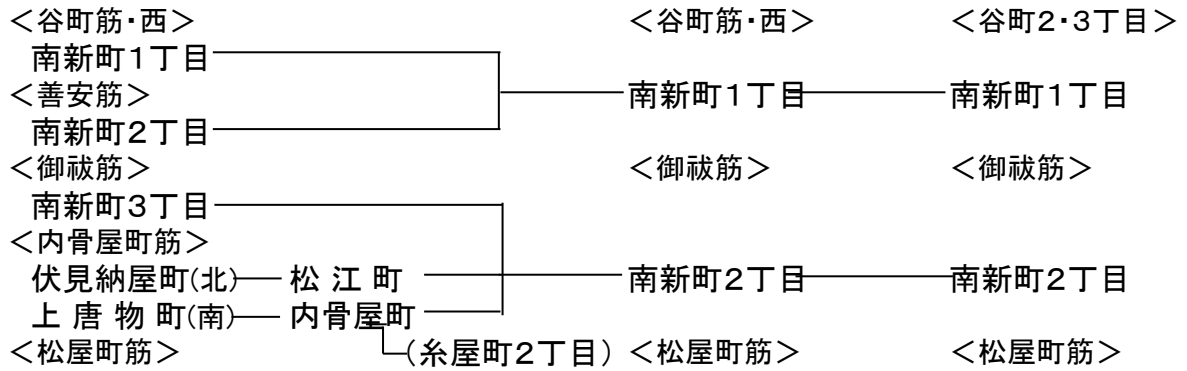
「スワンズシティ大手前ソレイユ」 糸屋町1丁目1-10

- ・平成26年2月竣工の地上15階建て分譲・賃貸タワーマンション。総戸数は84戸

○「南新町1～2丁目」

伏見町人の移住した町 住宅地域

明治5年3月17日



「市立中大江幼稚園」 南新町2丁目4-8(中大江小学校の南側)
(糸屋町2丁目の項を参照)

「円周寺」

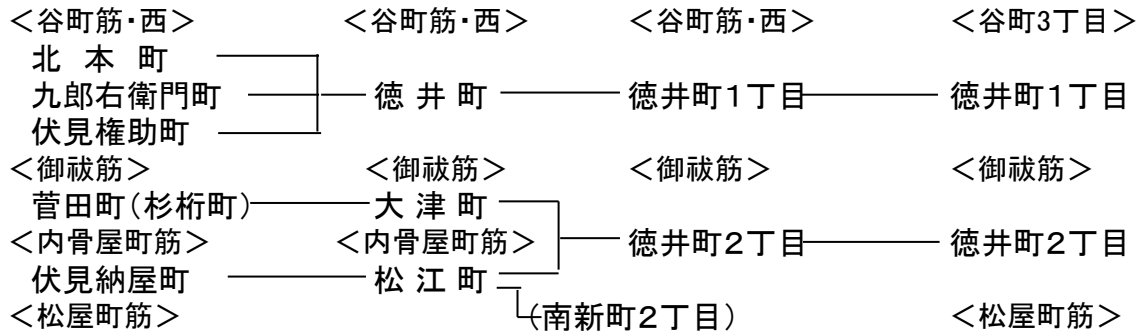
南新町1丁目2-13 島慶壽

・浄土真宗大谷派の寺院で、天正13年(1584)に島町で創建された後、龍造寺町、上本町2丁目を経て、明治2年(1869)7月に現在地に移転してきた。

○「徳井町(チウ)1～2丁目」

伏見町人の移住した町 住宅地域

明治5年3月17日



「妙見新地」

・かつて善安筋付近に妙見祠があり、その周辺に20軒ばかりの遊廓があつて”妙見新地”と呼ばれていたようであるが、幕末期には次第に衰退し、明治5年10月の特定地以外での遊所廃止措置によって消滅したとのことである。

「山本能楽堂」

徳井町1丁目3-6

・昭和2年(1927)、観世流能楽堂として建設。大戦の戦災により焼失するも、昭和25年(1950)に再建された。音響効果をよくするため、舞台下には大きな瓶が12個並べられている。
・木造三階建て建物の内部に本格的な能舞台を持つことから、平成18年(2006)11月に”国の登録有形文化財”に登録されている。



「宇野薬局」

徳井町2丁目3-3

・天保元年(1830)に美濃屋又兵衛(明治になって「宇野」の姓に)が薬の商いを創業し、現在は6代目が薬局を継いでいる。
・現在の店舗兼住宅建物は外観がタイル張で一見、洋風建築に見えるが、昭和9年(1934)建築の木造3階建て、内部は堅固な通し柱構造になっている。外壁は黄褐色のタイルで張り詰められ、各階軒の水平線と丸窓、緑色スパニッシュ瓦など昭和初期の意匠が残る建物で、平成12年4月に”国の有形登録文化財”に指定されている。



「古川病院」 徳井町1丁目2-2

・昭和58年開院の内科・循環器・小児科医院。

「ハクゾウメディカル(株)」 徳井町2丁目4-9

・昭和28年8月、唐物町にて繻帯・ガーゼ等を扱う佐々木商店として創業。その後、本社を豊後町(現・本町橋)に移し、平成7年、社名を「ハクゾウメディカル(株)」に変更した後、平成20年8月、現在地に本社ビルを新築移転した。医療関係者向け医薬品、医薬部外品などの製造販売を行う。

「本覚寺」 徳井町1丁目1-5 藤岡 厚

・浄土真宗大谷派に寺院で、寛永元年(1624)内淡路町で開基され、天保8年(1837)に焼失したため、翌9年5月、当地の屋敷を買い取って再建移転してきた。

「ゆめ中央保育園」 徳井町2丁目1-12

・平成22年4月に開設された私立の認可保育所で、0~5才児・112名を定員としている。近くには平成24年12月開園の分園(定員:0~2才児・30名)がある。

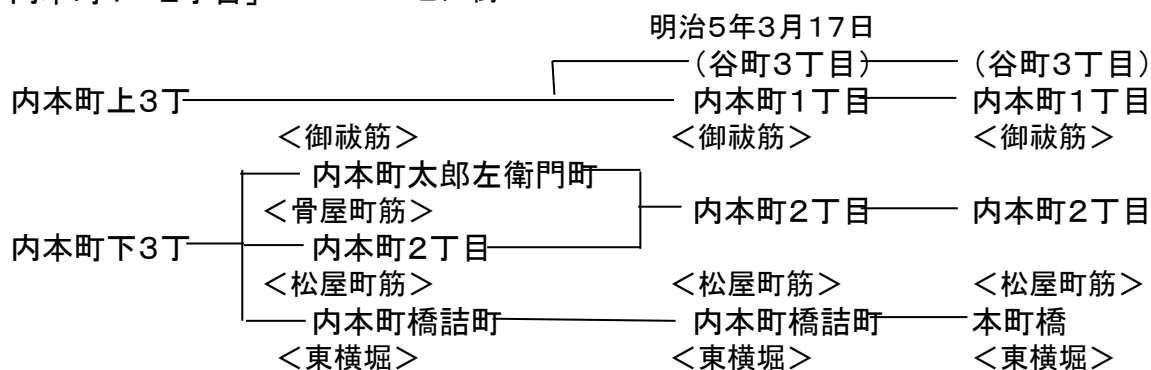
「ホテルマイステイズ大手前」 徳井町1丁目3-2

・昭和60年にオープンしたチェーンホテル。9階建て・総室数は110室。

「ライオンズマンション東本町第3」 徳井町2丁目2-11

・昭和59年6月竣工の地上15階建て分譲・賃貸タワーマンションで、総戸数は119。

○「内本町1~2丁目」 ビル街



「大阪市消防局中央消防署」 内本町2丁目1-6

・昭和53年3月・竣工の「内本町コーポ」(公共施設併存住宅=14階建マンション)の1階に置かれている。中央区発足時に「東消防署」から「中央消防署」に改称された。

「中央府税事務所」 内本町2丁目1-6(消防署の西隣)

・中央府税事務所は、法人府民税、法人事業税、地方法人特別税について大阪市全域を担当している。平成25年4月に大手前3丁目の大阪府新別館北館へ移転した。

「大阪内本町郵便局」 内本町2丁目1-19

・昭和59年9月に竣工した「内本町松屋ビル」1階にある。

「イムラ封筒」 内本町2丁目1-13

・大正7年(1918)に荷札の製造販売を扱う「井村商会」として設立され、昭和12年から封筒の製造・販売を始めた。請求書用封筒やDMなど、オーダーメイド中心の業務用封筒を中心とした国内最大手で、封筒業界唯一の上場企業である。

「コーヨー(KOHYO)内本町店」 内本町2丁目2-10

平成23年7月に開店したイオン系のスーパー。

「アパホテル大阪谷町」 内本町1丁目3-12

・平成13年3月にオープンした12階建てのチェーンホテルで、総室数は151室。

○「本町橋」(もと「内本町橋詰町(チヨウ)」) 北側=ビル街。南側=住宅地
(平成元年に誕生した町名で、松屋町筋より西、糸屋町通から農人橋通まで南北に広がる町)

・本町橋は、東横堀川に架かる橋で、それに由来する地名。現在の橋は大正2年に架けられたもので、大阪市内では現役最古の橋となっている。江戸時代には戦略上の重要な橋ということで公儀橋12橋の一つとされた。

「生国魂神社行宮」 本町橋8

・生国魂神社(天王寺区生玉町)の行宮で、明治8年に創建され、明治14年(1881)、氏子の寄進によって現在地(内本町橋詰町)に移転された。

昭和20年、大戦の戦災で焼失したが、昭和28年に氏子の尽力で再建された。

・明治8年から大戦前まで行なわれていた夏祭渡御(7月)では、大阪城公園での式典のあと午後から行宮に渡御され、午後7時頃に本宮に帰還されるもので、市内では天神祭に次ぐ大きな祭りであった。

「西鶴文学碑」 本町橋3

・「シティブラザ大阪」西側の植え込みの中に、黒御影石に『日本永代蔵』の一節が刻まれた「井原西鶴文学碑」が建っている。

・台座部分には、西鶴に関する説明文として、「井原西鶴、本姓平山氏通稱藤五。寛永19年(1642)大阪の富裕な町人の家に生まれたが、俳諧師として世に立ち、晩年は専ら浮世草子に筆を執った。俳名初め鶴永、後西鶴と改む。談林の祖西山宗因門人、軽口狂句を得意とし、一夜一日23500句獨吟の記録を樹てた。しかし西鶴の名を不朽ならしめたものは、その小説の作である。處女作・好色一代男を初め好色五人女、好色一代女、男色大鑑、世間胸算用、西鶴織留等およそ23部の小説は、獨得の俳諧的文章を以って元禄時代の世相風俗を活寫するばかりではなく、時空を超えて普遍的な人間の営みの姿と心のかなしさをよく傳へ得て明治以後のわが国近代小説に大きな影響を興へまた英・独・佛・ソ各国語に翻譯せられて、世界文学の代表的作品として高く評価せられている。元禄6年(1693)8月10日、52歳を以って歿した。芳名仙皓西鶴。墓所は南区上本町四丁目誓願寺にある。」と記してある。

「義侠 天野屋利兵衛之碑」 マイドームおおさか・裏

・「マイドームおおさか」の西側、東横堀川沿いに、「義侠 天野屋利兵衛」と刻された横4m・高さ2m程の大きな石の碑がある。天野屋利兵衛の屋敷がこの付近(豊後町)にあったということで、昭和14年に若宮稻荷神社の境内に建てられたもので、のちにここへ移された。

利兵衛は、赤穂藩の家老・大石良雄から吉良邸討ち入りの武具の調達を頼まれるが、武具をつくらせた者の密告により捕らえられ、依頼人の名を白状せよと奉行所で拷問を受けるが、「天野屋利兵衛は男でござる」と、頑として口を割らず、討ち入りの成功を知ったあとに大石の名を明かした利兵衛の義心に奉行は死罪を減じ、浪速の地追放の判決を下したとされる。こうしたエピソードから碑に「義侠」の文字が刻まれている。

天野屋利兵衛は、元禄時代に実在し、北組惣年寄も勤めているが、実像は不明で、エピソードは同名の別人もしくは創話だとする説もある。

「西町奉行所」と「初代・大阪府庁(大阪裁判所)」

・江戸時代はじめ、このあたりは幕府の米蔵屋敷のひとつとなって「浜の御蔵」と呼ばれ、大坂城に運ばれる米の一部は東横堀川を遡って、ここへ運ばれていた。

江戸時代中期には、米蔵から塩や味噌を貯蔵する「御塩噌蔵」となったが、妙知焼けで焼失してしまった。

「西町奉行所」

・西町奉行所は、元和5年(1619)、現・大手前合同庁舎第1号館の位置に東町奉行所と並んで設置されたが、享保9年(1724)の大火(妙知焼け)により焼失したため、上記の御塩噌蔵跡地に西町奉行所のみが移転してきた(敷地面積は9,600㎡)。

・慶応3年(1867)、東西奉行所が統一されて一つとなり、この地は奉行所役宅となった。

「初代・大阪府庁(大阪裁判所)」

・明治元年(1868)、明治維新によって奉行所は廃止されて「大阪鎮台(大阪裁判所)」となり、同年5月に「初代・大阪府庁」となった。

明治5年6月に明治天皇が行幸され、それを記念して、大阪市青年連合団により大正14年(1925)に「明治天皇聖蹟(セイヨク)碑」が建立されている。

・大阪府庁舎はその後、明治7年(1874)、西区江之子島に移せられ、さらに、大正15年(1926)、現在の大手前に移転している。

「府立・大阪博物場」と「府立・大阪商品陳列所」(のち「大阪府立貿易館」)

・明治7年に大阪府庁が江之子島へ移転した跡地に、明治8年「大阪博物場」が設立され、明治11年(1878)には、府立教育博物館を併合して、産業見本市、図書館、博物館、美術館、

動物園、植物園、舞台、公園がミックスした総合産業文化施設となった。このうち、図書館は、明治37年(1904)に「大阪図書館(現・府立中之島図書館)」に移管されている。

・明治23年4月には、英照皇太后(孝明天皇のお妃)と昭憲皇太后(明治天皇のお妃)が行啓されており、それを記念して「英照皇太后昭憲皇太后行啓之所」碑が建立されている。

・大正3年(1914)に、「府立商品陳列所」がこの地に新築・再建することが決定され、博物館は事実上の廃止となった。

これに伴い、同年、動物舎の動物が天王寺動物園へ移転されることとなったが、象だけは大きすぎたので、深夜の松屋町筋を歩いて移動することとなった。ところが、この象はサーカス出身だったため音楽がないと動かないということで、鳴り物入りでの移動が行われ、沿道には大勢の見物人が繰出して賑やかだったといわれている。

「府立・大阪商品陳列所」

・「大阪府立商品陳列所」は、明治23年(1890)に堂島に創立されたが、明治42年の”北の大火”で類焼したため、大正6年(1917)3月、この地に移して再建された。

大正14年(1925)5月、当時の皇太子裕仁親王(昭和天皇)が行啓され、昭和4年(1929)には、天皇となられた昭和天皇が行幸されている。

・昭和5年(1930)1月には、大阪府の産業行政機関整備・強化のため、名称を「大阪府立貿易館」と改められたが、大阪府の機構改革に伴い、昭和62年(1987)11月に廃止された。

なお、貿易館内には、昭和23年(1948)5月に2年制の「大阪高等貿易講習所」(のち「大阪府立貿易専門学校」に改称)が併設されたが、昭和60年(1985)4月、天王寺区夕陽丘に移転した。

「重建懐徳堂」

・享保9年(1724)に大坂の商人たちが今橋に設立した学問所の「懐徳堂」は、明治2年(1869)に閉校していたが、ぜひともその再建を願う人々が多く、大正5年(1916)に「重建懐徳堂」としてこの地に再建された。しかし、昭和20年(1945)3月14日の大空襲で焼失してしまい、その幕を閉じた。

「マイドームおおさか」 本町橋2-5

・昭和55年、大阪府商工業振興審議会は「大阪産業ビジョン80」の中で具体的プロジェクトの1つとして再度、産業貿易センターの建設を答申し、それに基づいて昭和62年(1987)9月、「マイドームおおさか」(地上8階・地下3階建て)が開館した。なお、その名称は、一般公募により決定されている。

・ここでは各種商談会、ファッションショー、異業種交流、先端技術・ベンチャービジネス関連の催しや、海外からの展示会、学術的内容のイベントや文化・芸術面の催しなど、様々なイベントが開催されてきたが、最近では、情報関連のサービスや製品の展示会、環境問題や高齢化社会を反映した催事、各種資格試験など、その内容も変化しつつある。

「シティプラザ大阪(旧・大阪コクサイホテル)」 本町橋2-31

・「大阪コクサイホテル(昭和26年開業)」が平成11年(1999)に閉鎖後、平成18年(2006)に「ホテル・シティプラザ大阪」が開業した。「マイドームおおさか」との間に連絡通路がある。

「大阪商工会議所」 本町橋2-8

・大阪商工会議所の前身である「大阪商法会議所」は、明治11年(1878)8月、明治維新で停滞した大阪経済の挽回を図るため五代友厚らが主唱して高麗橋22に誕生した。

その後、明治24年1月、堂島浜通2丁目に移転されたが、昭和21年9月、社団法人「大阪商工会議所」として再出発し、戦後の大阪経済の復興・発展過程で大きな役割を果たした。

・そして、昭和43年3月、ここに地上8階・地下2階の大阪商工会議所ビルが新築されて移転し、現在に至っている。

なお、大正13年に設立された「大阪工業会」が、平成15年3月に大阪商工会議所に統合されている。

「若宮商工稲荷神社」

・大阪商工会議所ビル南隣りにある「若宮商工稲荷神社」は、大阪商工会議所・初代会頭の五代友厚が大阪の商工業発展を祈念して建立した「商工稲荷神社」を、大阪商工会議所の移転に伴って堂島から遷座することになり、昭和40(1965)年9月に内本町の建設用地内にあった「若宮稲荷神社」のご神体と合祀して、新たに建立したものの。

毎年5月の午の日に若宮商工稲荷祭が行われている。

「若宮稲荷神社」由来

天正11年(1583)、豊臣秀吉が大坂城築城にあたって奉祀し、加護を祈願したのが始まりとされており、明治27年(1894)からは府立大阪博物場の鎮守神として奉祀されていたもので、昭和9年(1934)、松屋町筋の道路拡張に際して位置を変え社域を拡張した。

「商工稲荷神社」由来

五代が会頭であった明治12年1月、現在の中央区高麗橋3丁目に当時の「大阪商法会議所」事務所が新築された時に奉祀されたものとされる。その後、事務所が明治24年3月に北区堂島浜(現在のNTTテレパーク堂島付近)に移転した時、神社も併せて移転された。



オープン時の「マイドームおおさか」(右)と「大阪商工会議所」(左)

「大阪商工会議所前の銅像」

・大阪商工会議所ビルの前、若宮商工稲荷神社への石段の下に、大阪商工会議所の会頭3人の銅像(左から初代会頭の五代友厚、7代会頭の土居通夫、10代会頭の稲畑勝太郎)が設置されている。いずれも堂島の旧大阪商工会議所ビルから移設されたものである。

「五代友厚・像」… 天保6(1836)年12月鹿児島県生れ～明治18年(1885)9月歿

- ・明治11年(1878)9月から明治18年(1885)9月まで初代会頭を務めた。
- ・大阪活版所、西朝陽館、大阪製銅会社、大阪株式取引所、大阪商法会議所、大阪商業などを創設。

「土居通夫・像」… 天保8(1838)年12月宇和島生れ～大正6年(1917)6月歿

- ・明治28年(1895)4月から大正6年(1917)9月まで7代会頭を務めた。
- ・会頭時代には、関西・大阪の電気・鉄道網等のインフラ整備を実施し、第5回内国勸業博覧会の誘致・開催など大阪の近代化、国際化に大きな足跡を残した。
- ・大阪控訴裁判所所長、鴻池顧問、京阪電気鉄道(株)社長、大阪電灯(株)社長など歴任。

「稲畑勝太郎・像」… 文久2(1862)年京都市生れ～昭和24年(1949)3月歿

- ・大正11年(1922)12月から昭和9年(1934)7月まで10代会頭を務めた。
- ・会頭時代には、大阪貿易学校の設立や欧米への視察団の派遣をはじめとした貿易振興の活動を積極的に実施し、我が国の国際関係の改善に力を尽くした。
- ・フランス留学時に、映画を発明したリュミエールと懇意になり、映画の配給権を許されて日本に初めて映画を輸入したことや日本の軍服をカーキ色にしたことでも知られる。
- ・稲畑(株)を創業し、日本染料製造(株)、日土貿易協会、関西日仏会館などを設立。

「東横堀公園」(1716㎡) 本町橋5

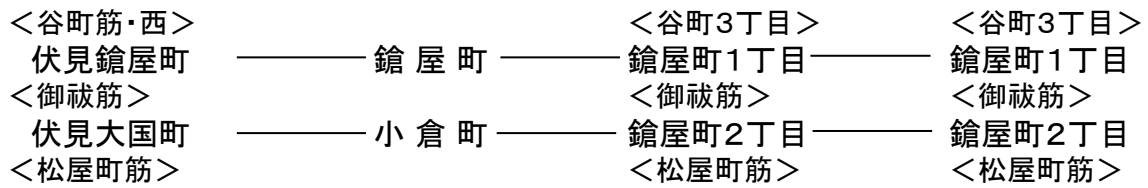
・昭和33年5月開園、東横堀川沿いの東横堀緑道につながる小さな公園で遊具はない。

「本町橋タワー」 本町橋1-5

・平成22年年2月に竣工した地上21階・地下1階建ての高層(高さ94m)複合ビル。下層(15階まで)がオフィス(レナウン大阪支店)、上層(16階以上)が賃貸マンションフロア

「業務スーパー・松屋町筋本町橋店」 本町橋8-6
 ・平成21年12月オープンのスーパーマーケット。

○「鎗屋(ヤリヤ)町1丁目・2丁目」 伏見町人の移住した町
 明治5年3月17日



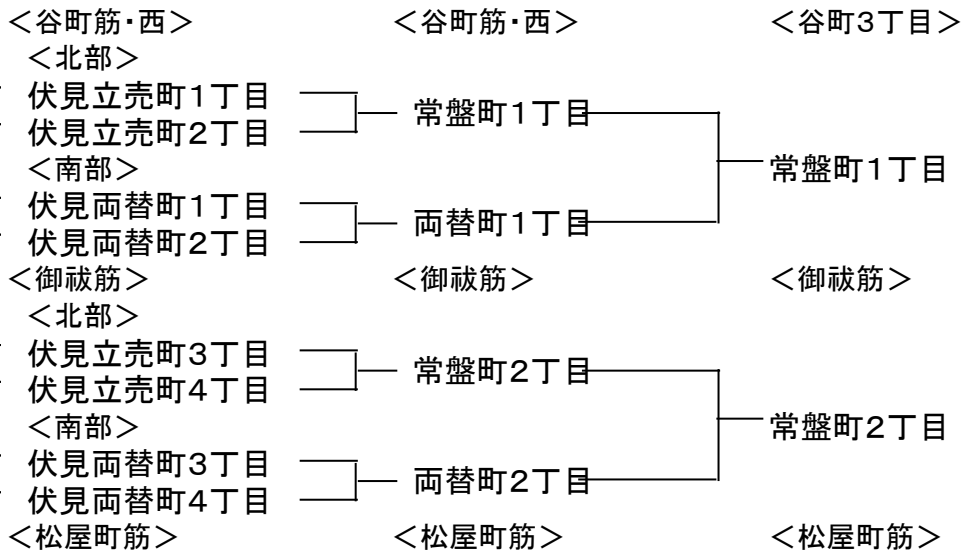
・町名は、かつて鎗や刀を扱う店が多かったことによる。

「月山貞一旧居跡」碑 鎗屋町1丁目2-4

・大坂は、江戸時代初期から国内有数の刀剣製作地で、「大坂新刀」といわれる直截的な優美華麗さがその特色であった。

この伝統を引き継ぐのが「月山(ガッサン)家」で、鎌倉から室町時代にかけて出羽国・月山を拠点に活動していたが、幕末には大坂に移住して当地で活躍した。貞一(天保7年~大正7年)は、生涯、鍛刀一筋に生き、銘ぶりの見事なことでも有名で、明治天皇の佩刀や伊勢神宮の宝刀を鍛えたことで知られている。

○「常盤町1・2丁目」 伏見町人の移住した町 商業地域
 明治5年3月17日



・両替町の町名は、「銀座があった」からや「かってお金を扱う商人が多かった」ことによるとされる。

「中央大通FNビル(大阪労働局第2庁舎)」 常盤町1丁目3-8

・平成9年8月竣工の地上24階・地下1階建て高層オフィスビル(階段状4層ビル)。
 大阪労働局第2庁舎として、14・17・21階に、労働保険徴収課、職業安定部や需給調整事業部等が、また、2~8階には大阪府国民健康保険団体連合会が入っている。

「農人橋」について

・慶長5年(1600)の記録に「久太郎町橋」と記されている橋が、最初の農人橋といわれる。
 『摂津名所図会』に、「いにしへ、川西の船場に田圃多くして、上町より農民かよひて耕作をなす」と記載され、豊臣期に市街化していた上町側(東側)から西側の農地へ渡るために架橋されたことから、この名が付けられたと思われる。。

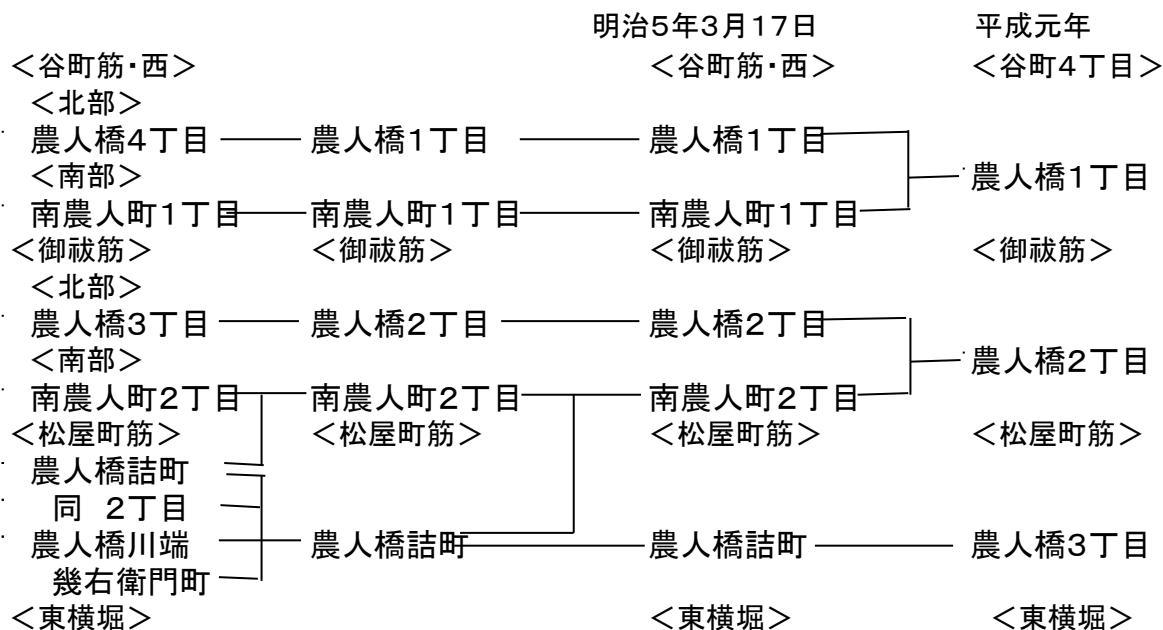
・江戸時代には谷町筋以東に大坂城代下屋敷・京橋口定番与力屋敷・大坂町奉行御金蔵などが立地しており、公儀橋12橋の一つとされていた。

現在の橋は、昭和44年に中央大通の敷設に伴い架け換えられたもの。

また、慶長年間に「安国寺恵瓊(エケイ)」の屋敷があったことから、橋・下流側(南側)の元来の

農人橋通の上町台地を登る坂道は、”安国寺坂”(または”恵瓊坂”)と呼ばれる。かつて、松屋町筋東北角には、伊勢大神宮を祀った拝殿・神殿を備えた「伊勢上人屋敷」があったとされ、享保期の妙知焼および幕末の嘉永期に焼失したとの記録が残されている。

○「農人橋1～3丁目」 ビル街

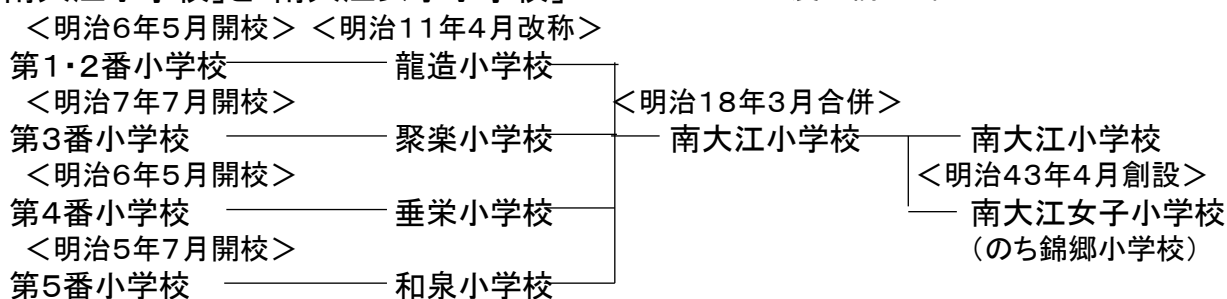


「南組惣会所跡」(現・「市立南大江保育所」) 農人橋1丁目1-2

- ・江戸時代に、南組の自治行政を行った惣会所が置かれていた。運営の中心となる惣年寄がおり、その下で惣代が実務を担っていた。惣年寄は町奉行のもとで、年貢の取り立て、御触の通達、町年寄の任命、火消しの人手の指揮など、現在の市役所・司法・消防・警察などの業務を担当した。
- ・南組惣会所は、はじめ本町4丁目にあったが、享保9年(1724)の大火(妙知焼)で類焼し、この地に移された。
- ・跡地には、南大江小学校があったが、昭和45年4月に現在地に移転し、現在その地には、昭和49年12月に設置された「東会館(東老人福祉センター)」と昭和50年5月設置の「市立南大江保育所」(定員=0才児~5歳児・112名で、中央子育て支援センターを併設)がある。現在は、一つの建物に建て替えられており、その南側道路わきに「南組惣会所跡」と「南大江小学校跡」の石碑が建てられている。

「南大江小学校」と「南大江女子小学校」

農人橋1丁目-3-3



- ・明治18年(1885)3月、龍造、聚楽、垂栄と和泉の4小学校が合併されて「南大江小学校」となり、垂栄小学校が仮本校、龍造小学校が第1分校、聚楽小学校が第2分校、徳井小学校が第3分校、和泉小学校が第4分校となった。

- ・「龍造小学校」は、明治6年(1873)5月、第2番小学校と称して龍造寺町官有地(銅座邸跡)に開校したもので、明治11年(1878)4月に龍造小学校と改称された。

学区域は、上本町1丁目・谷町5丁目・龍造寺町・内久宝寺町1丁目・同2丁目であった。

- ・「聚楽小学校」は、明治7年(1874)7月、第3番小学校と称して神崎町54・52番地に開校したもので、明治11年4月に神崎町の古町名をとって聚楽小学校と改称された。

学区域は、内久宝寺町3丁目・同4丁目・粉川町・神崎町・住吉町・十二軒町であった。

・「垂栄(スイエイ)小学校」は、明治6年(1873)5月、第4番小学校と称して南農人町1丁目・旧南大組大会議所跡(南組惣会所跡)に開校したもので、明治11年4月に校区内にある垂栄神社の名をとって垂栄小学校と改称された。

学区域は、谷町4丁目・和泉町1丁目・南農人町1丁目・農人橋1丁目・両替町1丁目。

・「和泉小学校」は、明治5年(1872)7月、第5番小学校と称して和泉町2丁目・鴻池新十郎控屋舗に修理を加えて開校したもので、明治11年4月に和泉小学校と改称された。

学区域は、和泉町2丁目・材木町・南農人町2丁目・農人橋2丁目・農人橋詰町・両替町2丁目であった。

・明治31年(1885)9月、新校舎が建築され、各分校は廃止された。新校舎は木造2階建てで16教室が造られ、旧校舎の6教室と合わせて22教室となった。

・その後、児童数の増加にあわせて明治40年に校舎を増築したが間に合わず、さらに、明治42年には尋常小学校が4年制から6年制に延長されたこともあり、通学区域の変更も検討されたが、男女児童を分離することになり、明治43年(1910)4月、南隣(和泉町1丁目)にあった南大江幼稚園と南大江裁縫学校(明治35年4月設立)の校舎を活用して、新たに、「南大江女子尋常小学校」が創立され、本校は男子児童のみとなった。

昭和16年(1941)には、男子校が南大江国民学校、女子校が錦郷国民学校と改称されている。

・昭和20年3月の空襲で錦郷国民学校が焼失したことおよび戦争で児童数が減少したこともあって、昭和21年(1946)3月には男子校と女子校が合併され、再び男女共学の「南大江小学校」となった。

・昭和45年(1970)4月、もと農人橋公園(昭和26年10月開園)であった現在地に新校舎が落成し移転した。

「南大江幼稚園」

・明治18年、南大江小学校に置かれた保育科が、同26年4月に南大江幼稚園となったが、同43年の南大江女子尋常小学校設立時に廃止された。

・昭和8年(1933)4月には和泉町1丁目・南大江女子尋常高等小学校の校内に、再び付設開園したが、昭和21年に同小学校が男子校と合併された際、廃止された。

「南大江会館(老人憩いの家)」 農人橋1丁目4-21

・平成元年4月、南大江小学校の北側に完成した市立の地域集会所。

・なお、南側には、私立の特別養護老人ホーム「さくら」が、平成6年5月に開園している。

「太閤(背割)下水」 農人橋1丁目3(南大江小学校西端の道沿い)

・豊臣秀吉が大坂城の城下町を建設した際に造られた下水網の一つが南大江小学校の敷地内に流れており、現在でも下水道として活用されているもので、平成18年にその一部(約7km)が大阪市文化財に指定されており、ここでは地上から見学可能になっている。

・家屋と家屋の背中合わせの間を割るように流れていることから「背割下水」とも呼ばれている。

「谷四錦郷公園」(4268㎡) 農人橋1丁目2(南大江小学校の東側)

・昭和57年3月、もと錦郷国民学校(女子校)の跡地に開園した。園内に高いフェンスで囲われた多目的広場があり、公園の北東角に「東警察署南大江交番」がある。

「ハローワーク大阪東(大阪東公共職業安定所)」 農人橋2丁目1-36(ピップビル)

・もと法円坂町2丁目の中央大通り沿い(現・難波宮跡公園)にあったもので、現在はここ「ピップビル」(平成9年竣工)の1~3階に置かれている。

「光臺寺」 農人橋2丁目1-15

・浄土真宗本願寺派の寺院で、文明年間(1469~86)、蓮如上人の直弟子・宗祐が河内国交野に光照寺を開基し、寛永6年(1629)2月当地に移って、翌年、今の寺名に改めた。

本堂・庫裏は、明治41年(1908)5月に再建されたもの。

「大江ビル」 農人橋1丁目1-22

・平成元年4月竣工の地上16階・地下2階建て高層賃貸オフィスビル。

「KDD谷町ビル」 農人橋1丁目1-27

・昭和50年10月に国際電信電話会社の新大阪国際電話局として竣工したもので、その後、「KDD谷町ビル」と改称された。

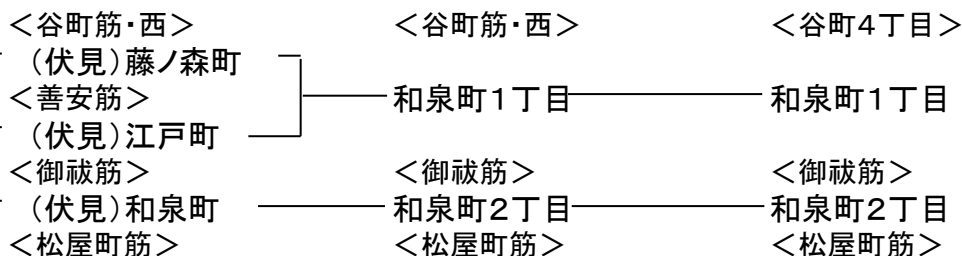
- ・現在は、「アパヴィラホテル」および「アップルタワー大阪谷町」になっている。
- 「アパヴィラホテル大阪谷町4丁目駅前」 農人橋1丁目1-27
 - ・平成18年4月にオープンしたチェーンホテルで、総室数は339室ある。
- 「アップルタワー大阪谷町」 農人橋1丁目1-29
 - ・平成18年6月竣工の地上32階・地下4階建て超高層(100m)タワーマンション。総戸数は300戸。(隣接するアパヴィラホテルのスパ施設が利用できる)

- 「ピップ(株)」 農人橋2丁目1-36
 - ・明治41年(1908)、大阪市にて「藤本真次商店」として医療用品の卸販売を開始し、昭和38年に社屋を現在の農人橋2丁目に移転(平成9年に本社ビル完成)し、翌年に「藤本株式会社」と社名を変更した。
 - ・昭和47年に磁気治療器「ピップエレキバン」を発売して主力製品となり、社名も「ピップフジモト」を経て、平成22年に現在の「ピップ(株)」になった。
 - ・なお、このビルの1~3階には「ハローワーク大阪東(大阪東公共職業安定所)」が置かれている。

- 「プレミアムコート谷町4丁目」 農人橋2丁目3-14
 - ・平成26年年9月竣工の地上15階建て賃貸タワーマンションで、総戸数は104戸
- 「エステムコート谷町4丁目」 農人橋2丁目3-8
 - ・平成25年年2月竣工の地上15階建て分譲タワーマンションで、総戸数は69戸

○「和泉町1・2丁目」 伏見町人の移住した町 商業地域

明治5年3月17日

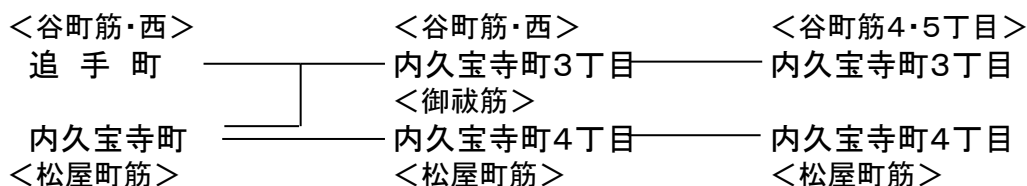


- ・和泉町には、江戸時代に鴻池家の始祖・新六幸元の次男(秀成)で分家となった山中善右衛門家と同じく分家した3男(之政)の鴻池又右衛門家(新十郎家)が、伊丹の鴻池村から移住し醸造業を営んでいた。善右衛門の孫である山中道徳は茶人としてその名を知られた。両替商として有名な鴻池善右衛門は、8男・正成で、今橋に屋敷を構えた。
- また、兄の竹山とともに懐徳堂をひきいた儒学者の中井履軒(リケン)も和泉町に住まいした。
- ・和泉町は、雪駄(セッタ)屋町という異名があり、『浪華百事談』には、「和泉町には鴻池又右衛門などの金満家あるを以てかくいひ、尻に金があるといふことにより、雪駄の名を呼びしとぞ」と記されている。

- 「南大江女子小学校」と「南大江幼稚園」 和泉町1丁目
(上記・農人橋1丁目の項を参照)

○「内久宝寺町3・4丁目」 住宅地域

明治5年3月17日



(内久宝寺町2~1丁目は、谷町筋の東側・上町地区の東西の町)

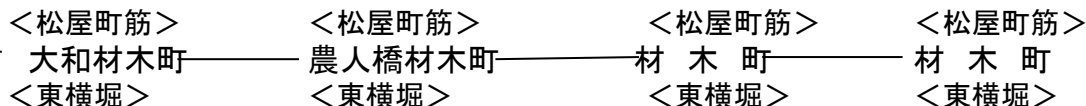
- ・内久宝寺町には、初代・鴻池善右衛門正成が元和5年(1619)に伊丹から移り住み、延宝2年(1674)、今橋の店を開くまで、ここで醸造業、両替商を営んだ。
- ・「久宝寺」という町名については、久宝寺という寺院があったとする説があるが、その所在場所が明らかでなく、八尾・久宝寺からの移住者が多いとする説の方が有力と思われる。

「徳成寺」 内久宝寺3丁目3-10 目幸 文範
 ・浄土真宗大谷派の寺院で、寛永5年(1628)11月、備後町1丁目で開基したが、延享5年(1748)5月に当地に移転した。

「グランドメゾン上町台レジデンスタワー」 内久宝寺4丁目68番地
 ・2020年10月完成予定で工事中の地上36階・地下2階建て分譲超高層タワーマンション
 「日本住宅公団・内久宝寺アパート」
 ・ここは、もと「日本住宅公団・内久宝寺アパート」の跡地である。昭和34年(1959)に建設された市街地住宅、いわゆるゲタバキアパートで、1~2階に店舗や事務所、3~5階が集合住宅(アパート)となっており、アパート棟が3棟建っていた。

○「材木町(チヨウ)」 住宅地域

明治5年3月17日

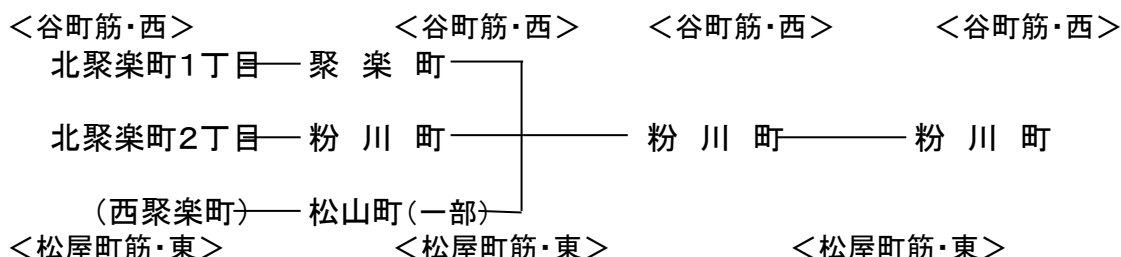


明治5年3月、一部が農人橋詰町になり、大部分が材木町となった。

・東横堀川東岸に沿い、農人橋3丁目の南に南北に延びる町。南は住吉町

○「粉川町(コガワチヨウ)」 伏見町人の移住した町 住宅地域

明治5年3月17日



・聚楽町の名は、慶長の初め(1615~)、京の聚楽第を移したという伝承に因む。聚楽御殿は、加賀・前田家に下されて元和(1615~24)頃までであったが、“大坂の陣”で焼亡したとされる。(『摂陽奇観』)

「大阪慈恵病院」

・未だ病院の少なかった明治20年代に、経済的な理由から病院にかかれない生活困窮者を対象に緒方惟準らが“慈恵会”を組織し、唐物町の円光寺で診療をはじめたのが始まりで明治27年(1894)1月、北久太郎町から粉川町に移転してきた。
 ・大正2年には弘済会(明治44年設立)と合体し、「弘済会・大阪慈恵病院」となったが、大正13年に生野区(現・大阪市立生野工業高校敷地)に移転した。

「上町市民病院」

・その跡地に鉄筋コンクリート3階建の「弘済病院」が建設され、大正15年3月に開院した。その後、弘済会の大阪市への移管問題が生じ、弘済病院は大阪市へ移管されて、昭和18年4月、「上町市民病院」と改称されたが、戦災で周辺が焼失したこともあり、昭和22年に廃止された。

「私立中央なにわ幼稚園」 粉川町7-6

・飲食店経営の山本豊助が昭和28年4月に私財を投じて開園したもので、翌29年11月に学校法人の認可を得た。
 当初の収容園児は120名であったが、現在の定員は3~5才児童、6学級・210名でスクールバスにより登降園している。
 ・道路を隔てた東側には「南大江公園」(下記・参照)がある。

○「十二軒町(チヨウ)」 住宅地域

・明治6年(1873)11月、地租改正条例によってここ十二軒町屋敷とその地続き及び谷町5丁目地尻の一部の(堀村)吉右衛門肝煎地(支配地)をもって「十二軒町」が編成された。

・明治22年10月、市制施行により大阪市東区に編入される。

「十二軒町」町名の由来

・寛文期(1661～1673年)の貼札をもつ「大坂町中並村々絵図」に「金奉行手代八人および蔵奉行十二人の屋敷」と記されており、御蔵手代屋敷が12軒あったことによる。

「(株)マンダム」 十二軒町5-12

・昭和2年(1927)12月、金鶴香水株式会社として設立され、昭和8年(1933)にスティック式整髪剤「丹頂チック」を発売してヒットし、「丹頂株式会社」と社名を変更。

・一時倒産の危機に直面するが、昭和45年(1970)にチャールズ・ブロンソンをイメージキャラクターに起用した「マンダム」シリーズを発売して大ヒットし、翌年に社名を「マンダム」に変更した。

「MANDOM」とは、元々は“Man Domain”(男の領域)という意味だったが、女性化粧品事業参入に伴い、“Human & Freedom”の略として使っている。

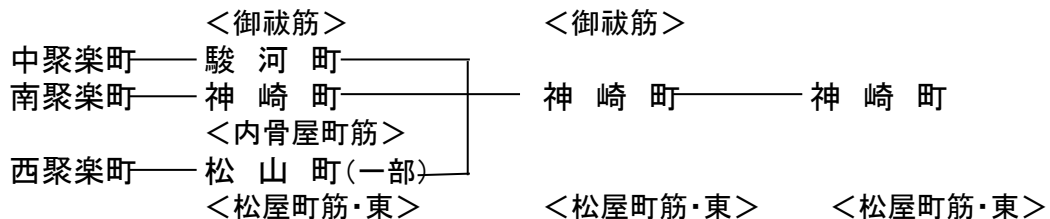
・平成5年、現在地に新本社ビルを建設した。

「レジディア谷町」 十二軒町7-1

・平成20年8月竣工の15階建て賃貸タワーマンションで、総戸数108戸。

○「神崎町(チョウ)」 伏見町人が移住し開発した町 住宅地域

明治5年3月17日



・町名は、この町にあった朝日神明社に因むもの。

「南大江公園」(6515㎡) 粉川町6(神崎町1丁目)

・昭和35年5月開園の児童公園。

西隅に「狸坂大明神」が祀られており、側に「朝日神明社跡」の石碑が建つ。

「狸坂大明神」は、かつて狸坂に祀られていたが、戦災後取り払ったところ、近所で1年間に8・9回も火事が発生したため、朝日神明社跡地に復興したとされる。

㊦ 狸坂は公園南側をまっすぐ堺筋に下りている坂道を指す。

・直木三十五が生まれ少年期を過ごしたのもこの辺り。(下記・安堂寺町2丁目の項を参照)

「朝日神明社跡」 神崎町(もと松山町)

・祭神は、天照皇大神。社名の朝日は、“祭神の天照皇大神に因む”とも“社殿が東向きであったことによる”ともされている。

・熊野九十九王子の2つめである「坂口王子」にあたり、文治元年(1185)の創建という。

・通称、逆櫓社(サカノヤシロ)とも言われ、源平合戦で平家追討に向う源義経が摂津・渡辺で船揃えの際に義経と梶原景時が逆櫓の是非を論争したが、この時、風波鎮護を当社に祈ったとされる。

・明治40年(1907)3月、此花区川岸町の皇大宮に合祀されて「朝日神明社」となり、昭和6年(1931)、此花区春日出へ遷座した。

・神崎町の町名は、この朝日神明社があったことに因むとされる。

「UHA味覚糖」本社 神崎町4-12

・昭和24年(1949)10月設立で、「七色の飴 味覚糖」や「純露」がロングセラーとなり、現在は、“ぶっちょ”・“コグミ”などのキャンディを中心とした菓子類の製造販売を行う。

・平成4年、「味覚糖UHA館」(本社ビル)が完成、2階にはサテライトショップもある。

○「松屋町住吉」

住宅地域(14階建てマンションが多い)

(東横堀川東岸に沿い、材木町の南に南北に延びる町。久宝寺橋の南、安堂寺橋まで)

明治5年3月17日

平成元年・改称

<松屋町筋・東>

<松屋町筋・東>

<松屋町筋・東>

住吉屋町

具足屋町

<東横堀>

住吉町

松屋町住吉

<東横堀>

<東横堀>

・住吉屋町には、南組惣年寄を勤めた住吉屋藤左衛門の屋敷があった。また、具足屋町は具足屋五郎兵衛に因む。

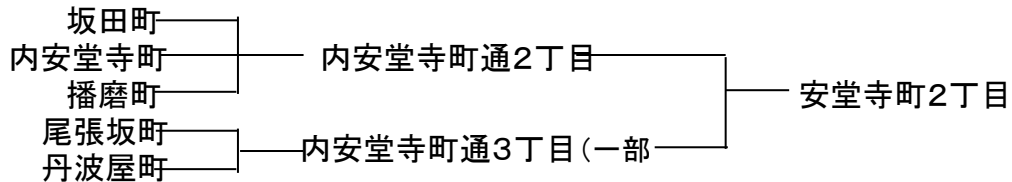
町の東部を通る松屋町筋の両側には、人形店が並ぶ。

・平成元年2月に誕生した町名。

○「安堂寺町2丁目」

明治5年3月17日

昭和57年2月1日



⑨「安堂寺町1丁目」は、「谷町筋」の東側

・町名について、ここにあった安曇寺の転訛とされているが詳かでない。

「榎木大明神」と「直木三十五文学碑」 安堂寺町2丁目 3

・熊野街道(御祓筋)が長堀通へ下る石段の側に、槐(エンジュ)の老木(樹齢670年)を御神木とし、巳(白蛇)をお祀りする「榎木大明神」がある。

当地の「榎木大明神の由来」には、「長年に亘り、地元の人達に”エノキさん”、”巳(ミイ)さん”と親しみ呼ばれているこの大樹は、正しくは”槐(エンジュ)”という中国原産の樹である。楠木正成公がお手植という説もあり、樹齢はおよそ650年と言われている。豊臣の時代には当地も大阪城域で、この辺りは紀州熊野参りとお伊勢参りの街道筋だった。だから大きくそびえるこの樹は何よりの目印になったし、また、地元の人達は土地神として、「白蛇大明神」の祠を建てて、代々この樹をお守りしてきた。……昭和63年、当樹が枯死寸前の状態になったとき、大阪市と地元有志からの依頼を受けた山野忠彦樹医の適切な延命治療により、再び元気を取り戻した。」と記されている。

「直木三十五文学碑」

・すぐ横に、直木三十五(サンジュウゴ)の薩摩藩のお家騒動を素材とした小説『南国太平記』の一節を記した「直木三十五文学碑」がある。その功績をもとに「直木賞」が設けられた直木三十五(本名:植草宗一)は明治24年にこの近くで生まれ、現・桃園小学校、市岡中学校(現・市岡高校)を経て早稲田大学で学んだあと、文筆家として大衆文芸に新風を吹き込んだ。そのペンネームは、本名の”植”の字を2字に分けて”直木”とし、その時の年齢である31才から”三十一”とした。以降、年齢を重ねるごとに筆名も改め、”三十五”でとどめた。

「マストタワー 安堂寺」

安堂寺町2丁目 3-8

・平成21年12月竣工の地上32階・地下1階建て超高層(105m)の分譲・賃貸タワーマンションで、総戸数は115戸。

「エスリード長堀タワー」

安堂寺町2丁目 6-11

・平成22年12月竣工の地上26階建て分譲高層タワーマンションで、総戸数は270戸。

「プラウドタワー 安堂寺」

安堂寺町2丁目 1-3

・平成24年5月に閉鎖された東京三菱UFJ銀行上町支店の跡地に、平成27年8月完成した地上21階建て分譲高層タワーマンションで、総戸数は100戸。

「ユニ末吉橋」

安堂寺町2丁目 6-15

・平成10年1月竣工の地上15階建て分譲タワーマンションで、総戸数は54戸。

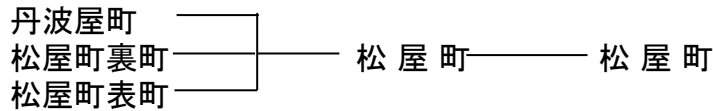
「プレサンス松屋町グレース」

安堂寺町2丁目 22-3

・平成30年2月竣工の地上15階建て賃貸タワーマンションで、総戸数は124戸。

○「松屋町」

明治5年3月17日



- ・町名の由来については、かつて松屋某の屋敷があったことによるとされる。
- ・大坂人には、「まっちゃんまち」(又は「ごっちゃんまち」)の愛称で親しまれている。
- ・松屋町筋の1つ東の筋から東横堀川の間を南北に延びる町で、北は松屋町住吉、南は瓦屋町1丁目、東は安堂寺町2丁目と谷町6丁目、西は南船場1丁目と島之内1丁目と隣接する。(ただし、南半分は長堀通の南にあたり、この冊子の対象範囲外となるが、含めて記述する)
- ・松屋町筋沿いの内久宝寺町交差点より南側には、人形・駄菓子・花火・紙、文房具などの卸問屋街である「松屋町問屋街」が軒を連ねている。江戸時代から菓子問屋が集中する町であったが、その他の人形などの問屋は明治以降に御堂筋拡幅などで移転してきた店が多い。

「末吉橋」について

- ・東横堀川の長堀通に架かる橋で、江戸時代初期に朱印船貿易で活躍した豪商・末吉孫左衛門(吉安)が架けたことからその名が付けられている。長らく木橋であったが、明治43年に市電が玉造まで延長された際に、鋼鉄製に架け替えられた。
- ・長堀通川が埋立られる前は、長堀通が「末吉橋通」と呼ばれていた。

「ハウス食品(株)」

- ・「ハウス・バーモントカレー」で知られるハウス食品は、現在、本店を東大阪市に置く大手食品メーカーであるが、その創業は、創業者の浦上靖介が大正2年(1913)に、ここ松屋町で始めた薬種原料問屋の「浦上商店」である。浦上が出張の際に購入した外国製のカレー粉に色々なスパイスを調合して日本人好みのカレー粉を開発し、「ホームカレー」として売り出した。しかし、「ホームカレー」の名は商標権上の問題が発生したため、妻が言った「日本に「ホーム」の概念はあらしまへん。カレーを売るなら「ハウス」だす。」の一言をヒントにしてその名前を「ハウスカレー」とし、大ヒットした。それが、昭和3年(1928)のことである。
- さらに、販売開始当初は、各地の百貨店でチンドン屋を従えて本社社員が店頭でカレーを作る実演販売を行い、試食を提供する宣伝活動を行ったことが大当たりし、それまで日本人には余り馴染みがなかったカレーを日本の食卓に広めていった。
- ・昭和35年(1963)に、社名を「ハウス食品工業」と変更し、昭和58年にはミネラルウォーター「六甲のおいしい水」を発売して飲料事業にも力を入れたが、平成22年に神戸の採水場と製造工場をアサヒ飲料に事業譲渡した。現在は、カレーやシチューのほか「とんがりコーン」や「さわやか吐息」(口臭予防タブレット)などといったスナック系を主力商品化している。

「大阪末吉橋郵便局」

松屋町10-14

「蓮美幼稚学園もりのみやナーサリー」

松屋町8-13

- ・平成22年4月に開設された私立の認可保育所で、0~2才児・45名を定員としている。

「松屋タワー」

松屋町3-23

- ・平成21年1月竣工の地上29階建て賃貸高層タワーマンションで、総戸数は192戸。

「シャリエ松屋町タワーレジデンス」

松屋町1-16

- ・平成27年7月竣工の地上20階・地下1階建て分譲賃貸高層マンションで、総戸数109戸。

「リーデンススクエア松屋町」

松屋町2-10

- ・平成16年2月竣工の地上15階建て賃貸タワーマンションで、総戸数は109戸。